

10 防災

(44) 東日本大震災の被災経験

東日本大震災の被災経験について見ると、宮城県内で被災した人が 42.9%、他の都道府県で被災した人が 9.3%で、全体のうち 52.2%が被災経験があり、被災していない人の割合 45.2%を上回っている。

問 44 あなたは、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を経験しましたか

表 44 東日本大震災の被災経験

	N	%
宮城県内で経験した	170	42.9%
他の都道府県で経験した	37	9.3%
経験していない	179	45.2%
無回答	10	2.5%
計	396	100%

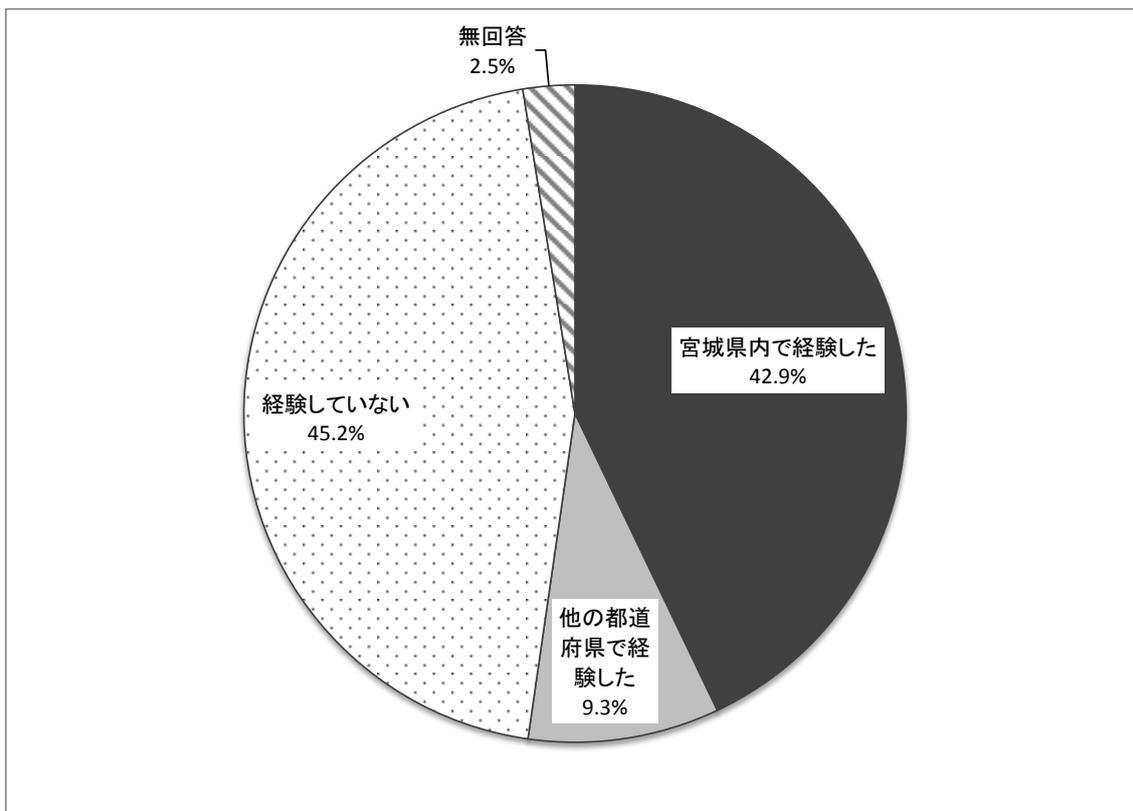


図 44 東日本大震災の被災経験

(45) 地震直後に知りたかった情報

地震から1週間までの間に知りたかった情報については、「ライフラインの復旧状況」が最も多く、71.8%の回答者が選択している。次いで「地震の情報」が64.7%、「福島第一原子力発電所の事故の情報」が53.5%、「家族・友人の安否」が52.9%となっている。また、「津波の情報」も50%程度の人があげている。

問 45 地震直後から1週間までの間に知りたいことは、何でしたか（複数回答）

（問 44 で「宮城県内で経験した」と回答した人）

表 45 地震直後に知りたかった情報

	N	%
ライフライン（電気・ガス・水道）の復旧状況	122	71.8%
地震の情報	110	64.7%
福島第一原子力発電所の事故の情報	91	53.5%
家族・友人の安否	90	52.9%
津波の情報	87	51.2%
どのに避難すればよいか	53	31.2%
母国の大使館・領事館の情報	34	20.0%
出国の方法	24	14.1%
外国語で相談できる窓口	9	5.3%
行政の8以外の相談窓口	6	3.5%
その他	5	2.9%
無回答	1	0.6%
計	170	100%

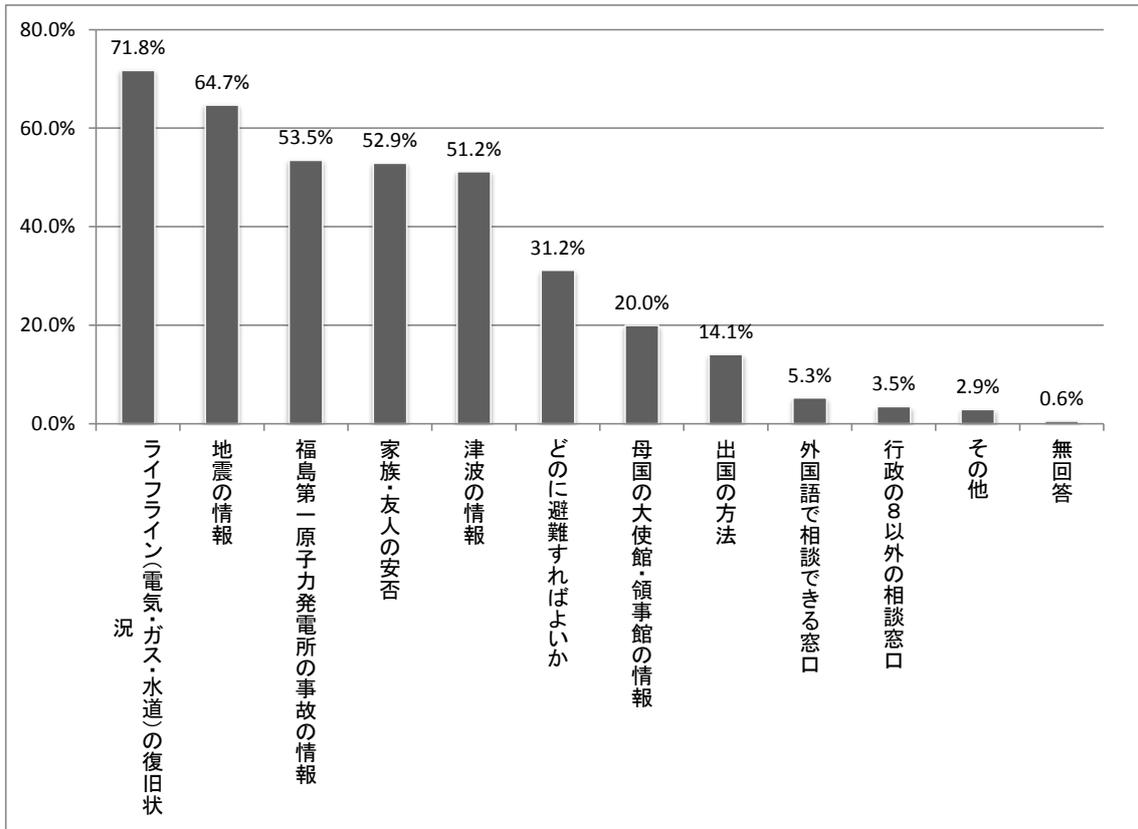


図 45 地震直後に知りたかった情報

(46) 地震直後に得た情報の入手先

地震直後に得た情報の入手先を見ると、日本語のテレビ放送から情報を得ていた人の割合が最も高く、49.8%を占めた。次いで日本語のラジオ放送が 37.7%、日本人の友人・知人が 28.0%、日本にいる家族・親戚が 27.5%となった。一方、情報を全く得ることができなかった人は回答者の 2.4%にとどまった。

問 46 地震直後から 1 週間までの間、知りたい情報はどこから得ましたか (複数回答)

表 46 地震直後に得た情報の入手先

	N	%
日本語のテレビ放送	101	46.5%
日本語のラジオ放送	77	35.5%
日本人の友人・知人	58	26.7%
日本にいる家族・親戚	55	25.3%
携帯電話のワンセグテレビ・インターネット	50	23.0%
母国出身の友人・知人	44	20.3%
近所の人	42	19.4%
職場・学校	36	16.6%
新聞	33	15.2%
パソコンのインターネット	28	12.9%
行政のお知らせ	27	12.4%
国外にいる家族・親戚	27	12.4%
避難所にいた人	25	11.5%
地域の災害エフエム放送	14	6.5%
ツイッター、フェイスブック	9	4.1%
母国以外の外国出身の友人・知人	8	3.7%
情報は全く得ることができなかった	4	1.8%
日本語以外のテレビ放送	3	1.4%
情報は必要なかった	2	0.9%
日本語以外のラジオ放送	1	0.5%
その他	0	0.0%
無回答	16	7.4%
計	217	100%

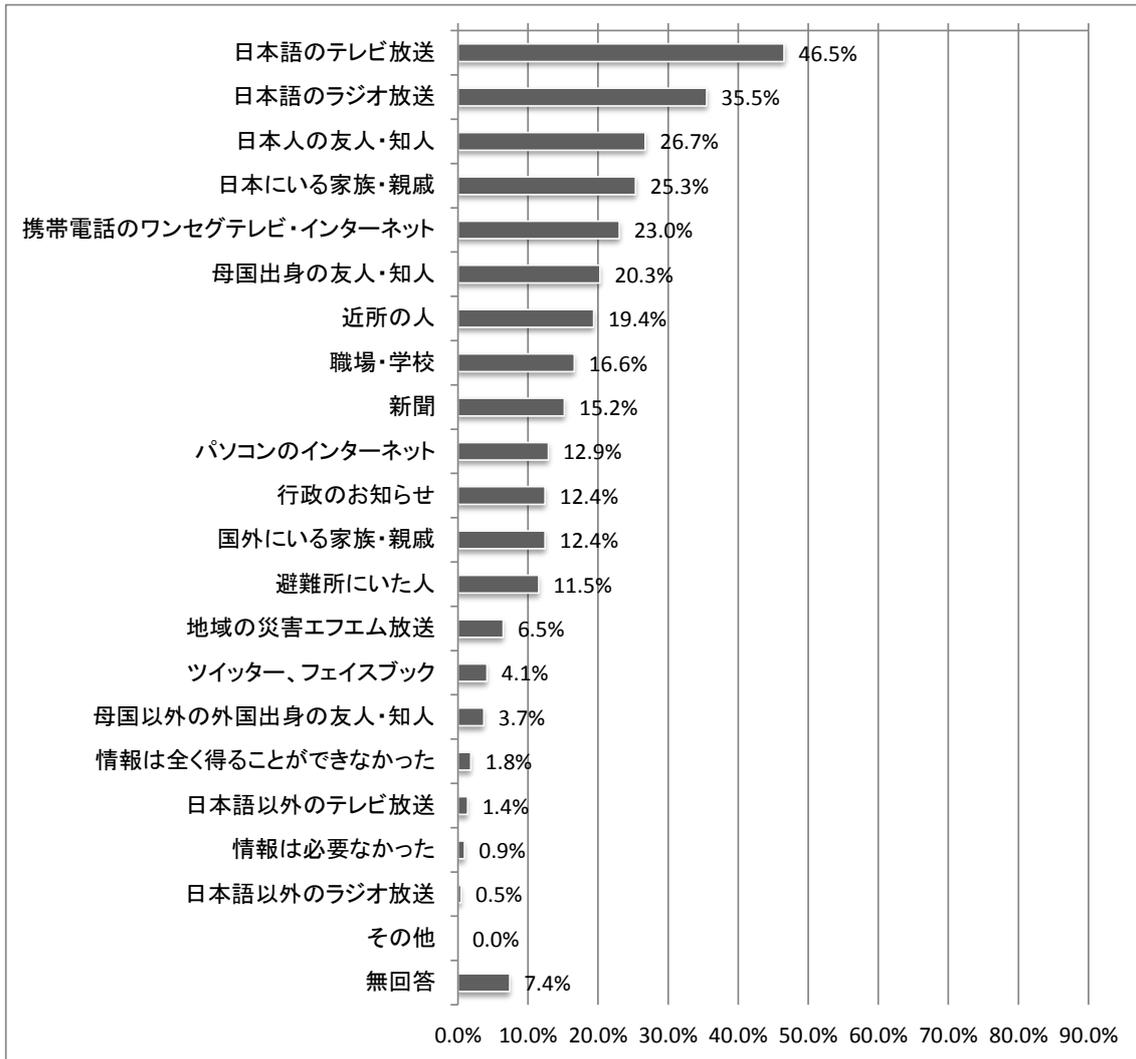


図 46 地震直後に得た情報の入手先

居住年数別に地震直後に得た情報の入手先を見ると、居住年数が5年未満ではインターネットが80%を占めているが、日本語メディアはすべての居住年数で50%を超えており、居住年数が5年未満を除けば最も割合が高い。また、居住年数が10年未満では外国人ネットワークが45%を占めたほか、居住年数が20年未満と居住年数が20年以上では日本人ネットワークがそれぞれ35%、51%を占めている。

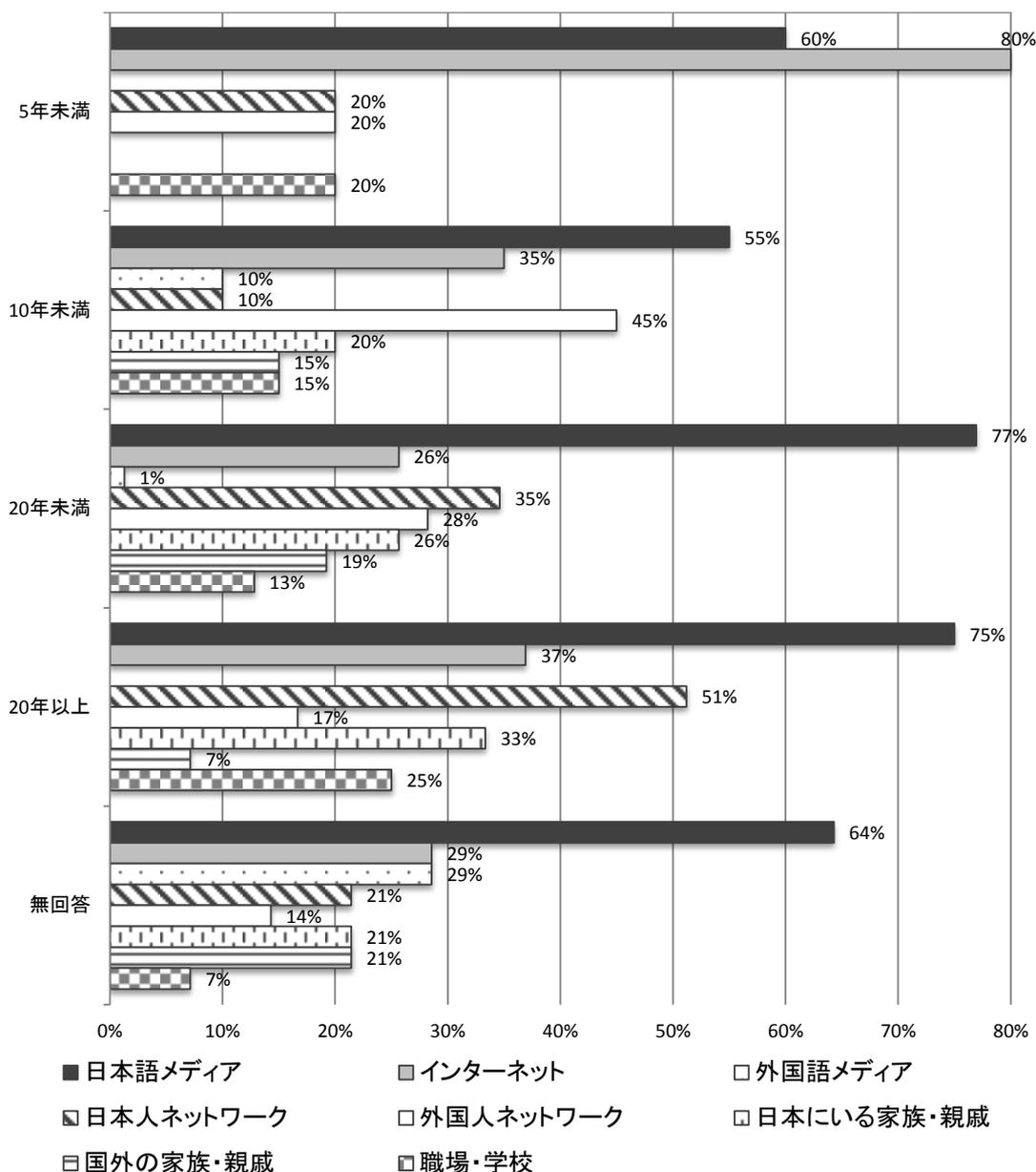


図46-2 日本居住年数別地震後の情報入手方法(N=201、問46に無回答の回答者を除いた割合)

在留資格別に地震直後に得た情報の入手先を見ると、永住者、特別永住者、日本人の配偶者、定住者では日本語メディアの割合が最も高く 60%を超えている。留学ではインターネットが 100%に達した。家族滞在ではインターネット、外国人ネットワーク、国外の家族・親戚、職場・学校が 50%で並んだ。技術・人文知識・国際業務では外国人ネットワークと国外の家族・親戚が 50%となった。また、永住者、特別永住者では日本人ネットワークも 2 番目に高い割合となっている。

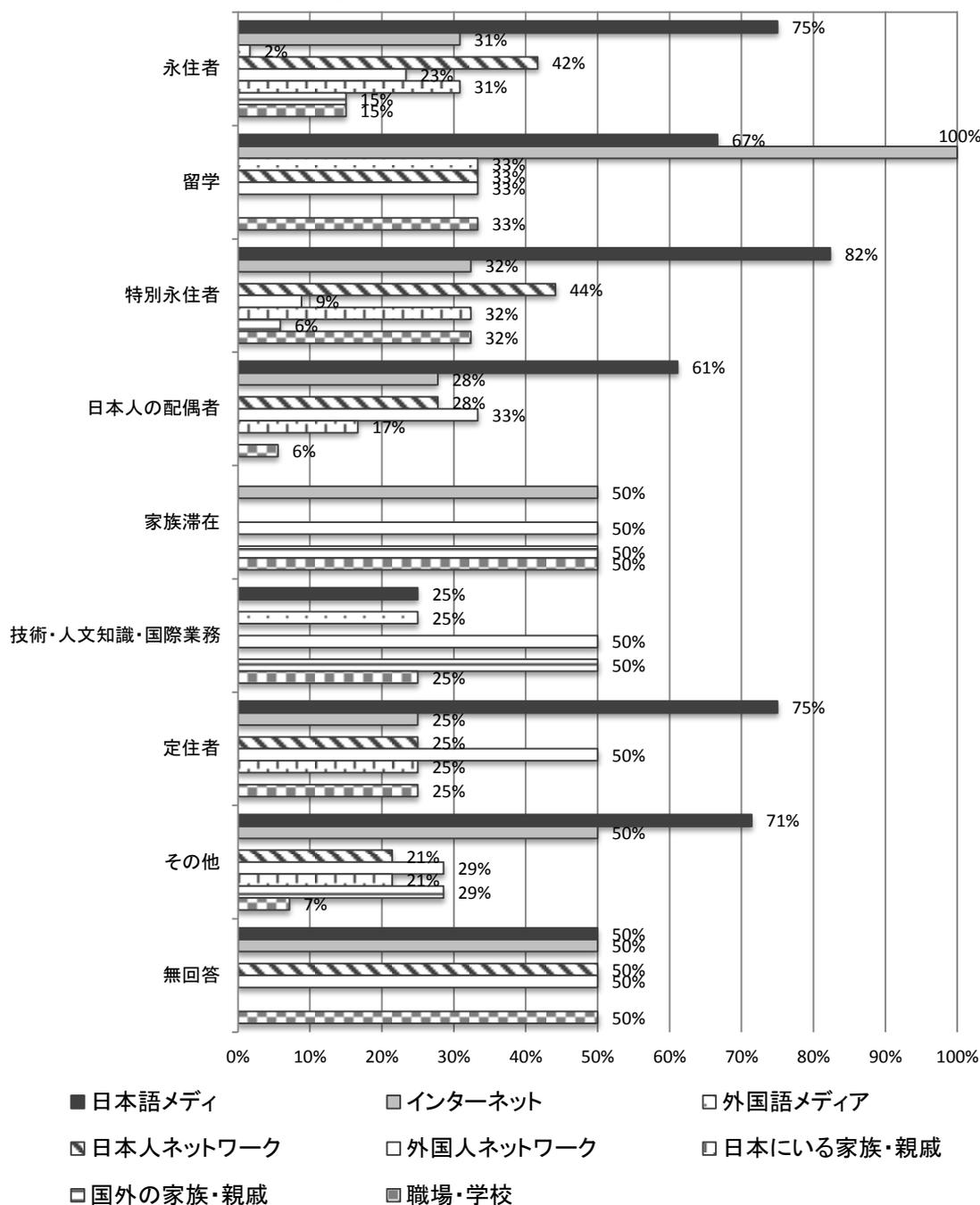


図46-3 在留資格別地震後の情報入手方法(N=201、問46に無回答の回答者を除いた割合)

(47) 地震についての知識

宮城県で地震が多いことを知っていた割合は 61.8%となっており、知らなかった割合 34.1%を上回っている。

問 47 宮城県では地震が多いことを知っていましたか

表 47 地震についての知識

	N	%
知っていた	134	61.8%
知らなかった	74	34.1%
無回答	9	4.1%
計	217	100%

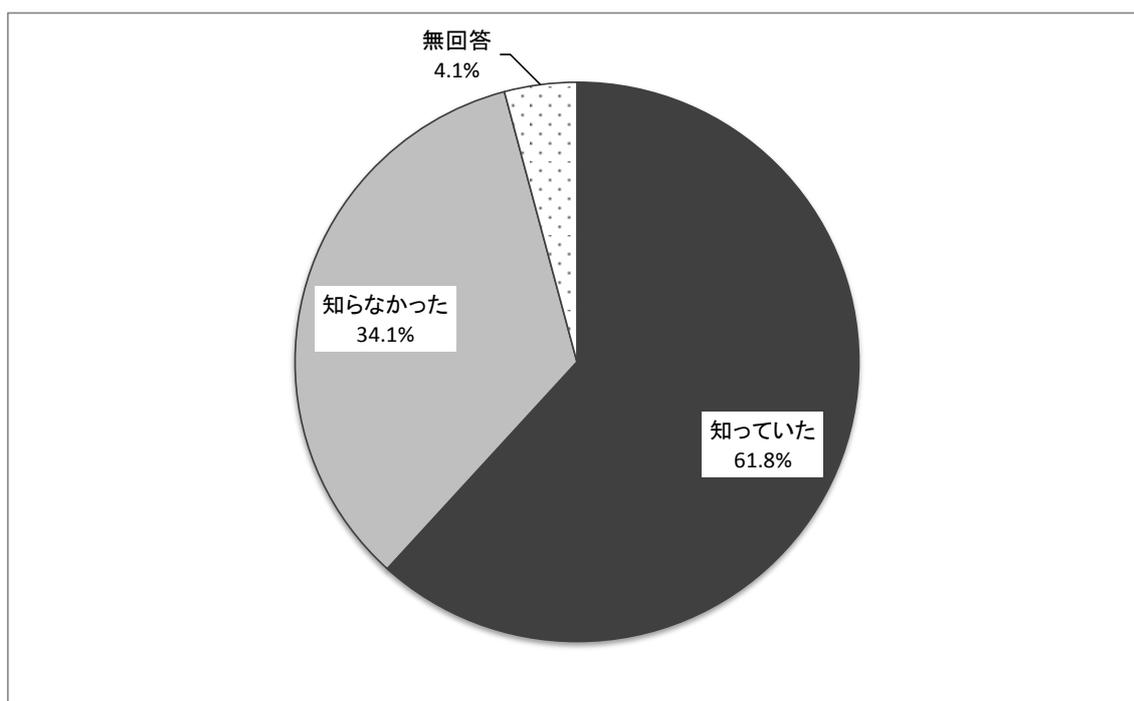


図 47 地震についての知識

在留資格別に地震についての知識を見ると、家族滞在以外の在留資格で知っていたが60%を超えた。家族滞在では知っていた、知らなかったが50%で拮抗している。このほか知らなかったは永住者、留学、定住者で30%を超えている。

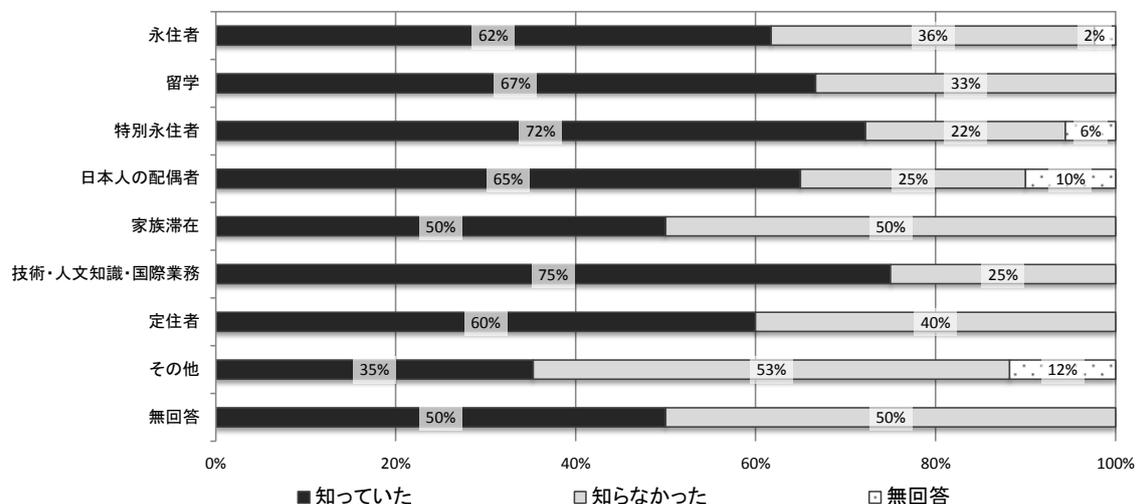


図47-2 在留資格別地震についての知識の分布 (N=217)

日本の居住年数別に地震についての知識を見ると、20年未満以外の居住年数で知っているが60%を超えた。知らなかったは5年未満、10年未満、20年未満で回答がおよそ40%近くあるが、20年以上では26%と割合が低下する。

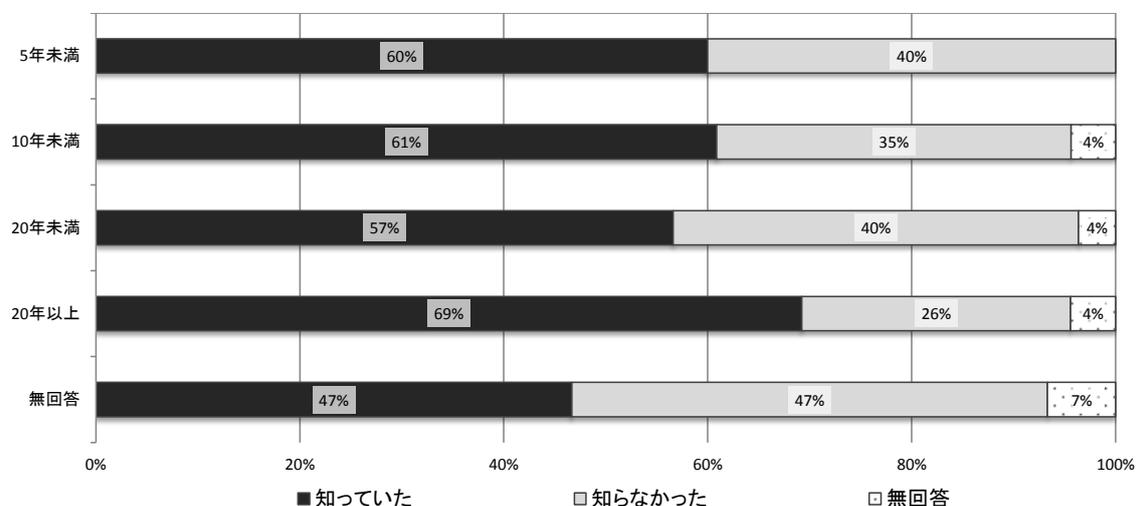


図47-3 日本居住年数別地震についての知識の分布 (N=217)

(48) 津波についての知識

地震発生後に津波が来る可能性があることを知っていた人の割合は 50.2%で、知らなかった人の割合 46.1%をやや上回った。なお、津波が来る可能性があることを知っていた割合は、地震が多いことを知っていた割合と比べると 10 ポイント以上低くなっている。

問 48 地震発生後には、津波が来る可能性があることを知っていましたか

表 48 津波についての知識

	N	%
知っていた	109	50.2%
知らなかった	100	46.1%
無回答	8	3.7%
計	217	100%

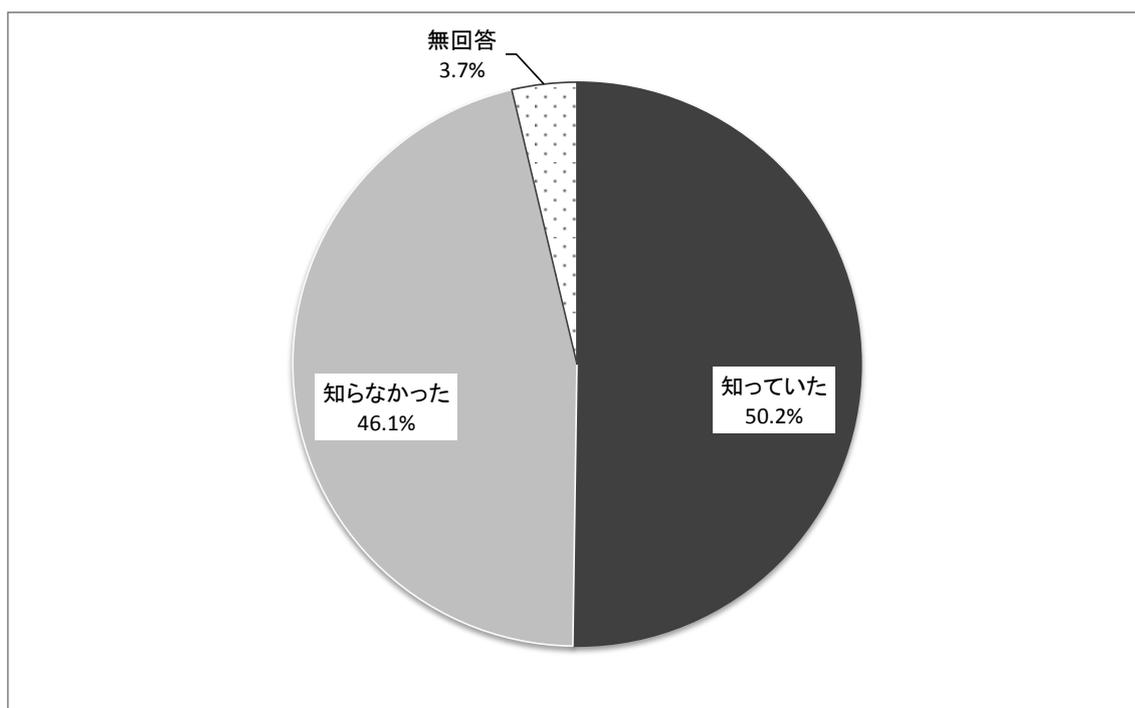


図 48 津波についての知識

在留資格別に津波についての知識を見ると、知っていたと回答したのは留学で100%となったほか、技術・人文知識・国際業務、定住者で60%を超えた。永住者、特別永住者、日本人の配偶者、家族滞在、定住者では知らなかったが40%以上となっている。

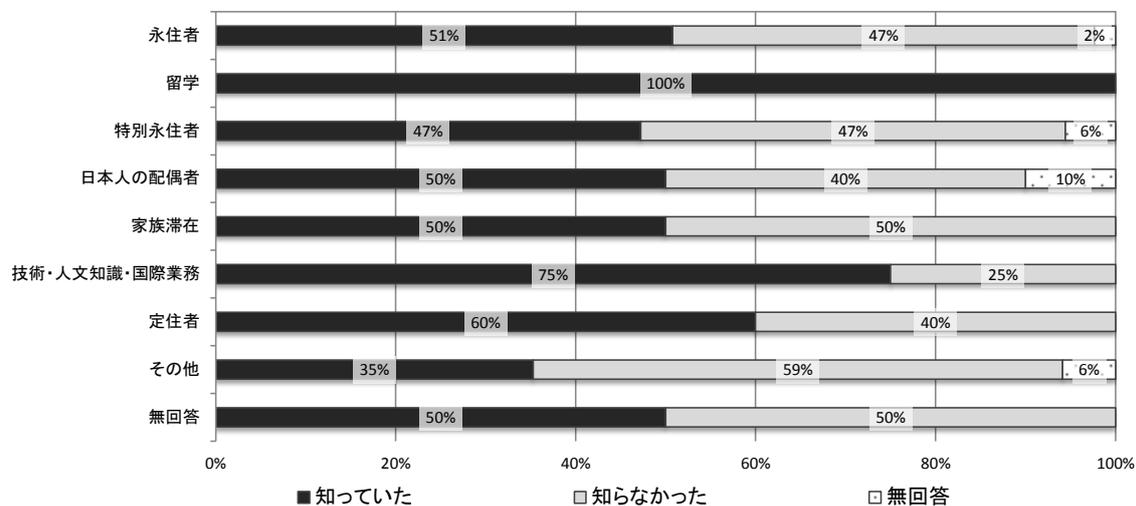


図48-2 在留資格別津波についての知識の分布 (N=217)

日本の居住年数別に津波についての知識を見ると、5年未満で60%が知っていたと回答した。一方の知らなかったはすべての居住年数で40%を超え、20年未満で49%と最も高い。

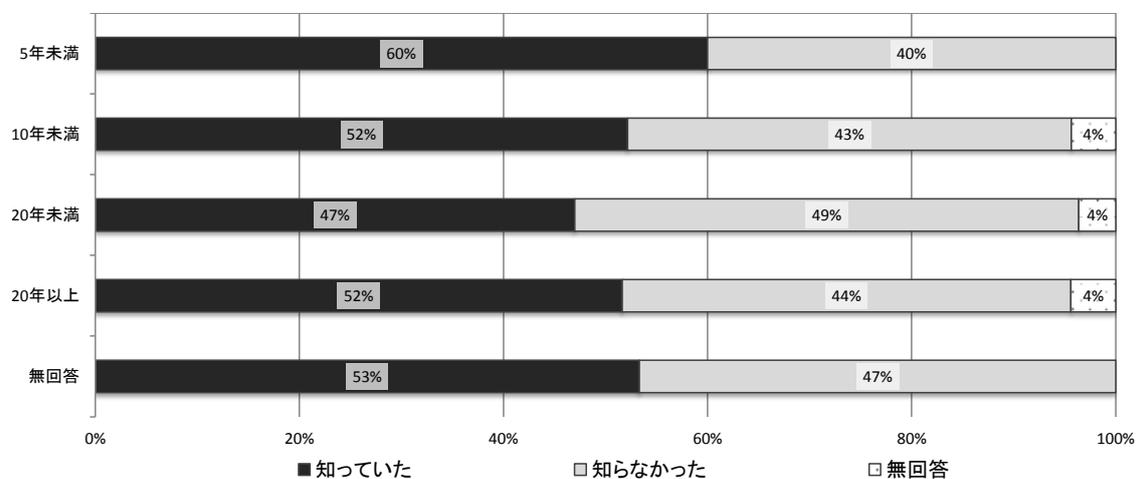


図48-3 日本居住年数別津波についての知識の分布 (N=217)

日本語を話す・聞く能力別に見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人では知っていたが56%となったのに対し、日本語を話す・聞く能力が中程度の人と低い人では知らなかったが55%以上となっている。

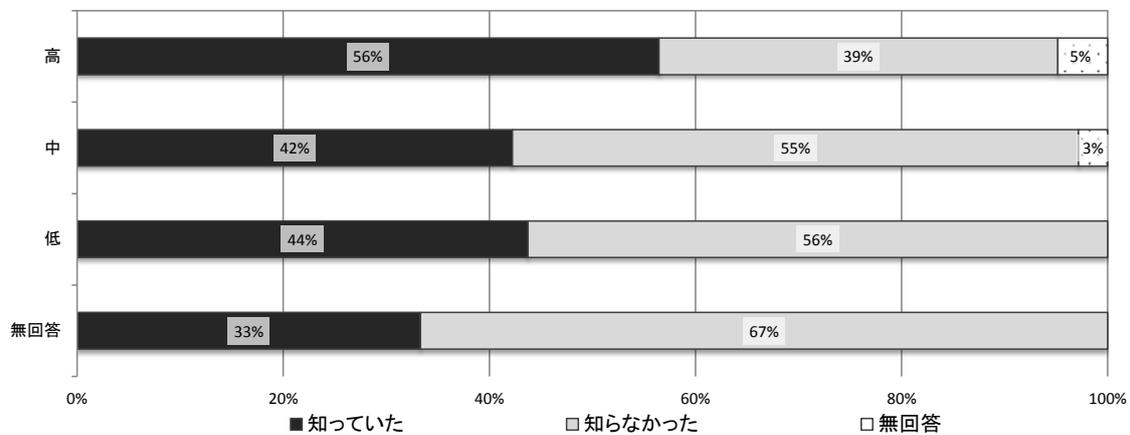


図48-4 日本語能力(話す・聞く)別津波についての知識の分布(N=217)

(49) 地震・津波についての知識の入手先

地震や津波についての知識を獲得した方法について見ると、家族や友人などから聞いた人が最も多く、29.1%となっている。また、日本に来る前から知っていた人の割合も21.7%と比較的高い。その他の入手先については、いずれも10%を下回っている。

問 49 それをどのようにして知りましたか

(問 47・問 48 で「知っていた」と答えた人)

表 49 地震・津波についての知識の入手先

	N	%
家族や友人などから聞いた	51	29.1%
日本に来る前から知っていた	38	21.7%
自分で勉強した	16	9.1%
先生から聞いた、または学校の資料で見た	12	6.9%
防災訓練に参加した時に知った	7	4.0%
職場で聞いた	4	2.3%
その他	22	12.6%
無回答	25	14.3%
計	175	100%

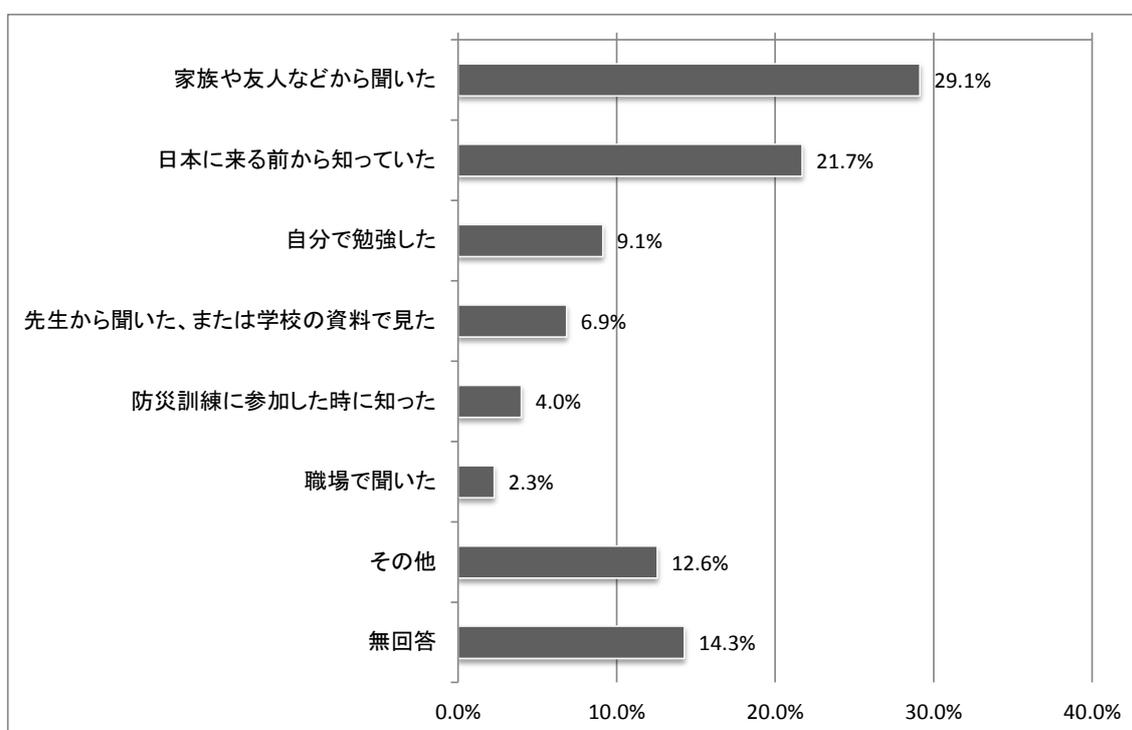


図 49 地震・津波についての知識の入手先

(50) 防災用語についての知識

4つの防災用語の意味を知っているかどうかを見ると、最も意味が知られている津波であり、67.7%の人が「意味も知っている」と回答している。避難は57.1%、注意報は52.3%、警報は52.5%の人が「意味も知っている」と回答している。これに対し、高台については「意味も知っている」と答えた割合は42.7%にとどまり、32.8%が「知らない」と回答している。

問 50 『津波』、『高台』、『避難』、『注意報』、『警報』の意味を知っていますか。

震災を経験した方は、経験前に知っていたかについてお答えください

表 50 防災用語についての知識

	津波		高台		避難		注意報		警報	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
聞いたことがある	76	19.2%	79	19.9%	80	20.2%	92	23.2%	86	21.7%
意味も知っている	268	67.7%	169	42.7%	226	57.1%	207	52.3%	208	52.5%
知らない	33	8.3%	130	32.8%	71	17.9%	78	19.7%	82	20.7%
無回答	19	4.8%	18	4.5%	19	4.8%	19	4.8%	20	5.1%
計	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

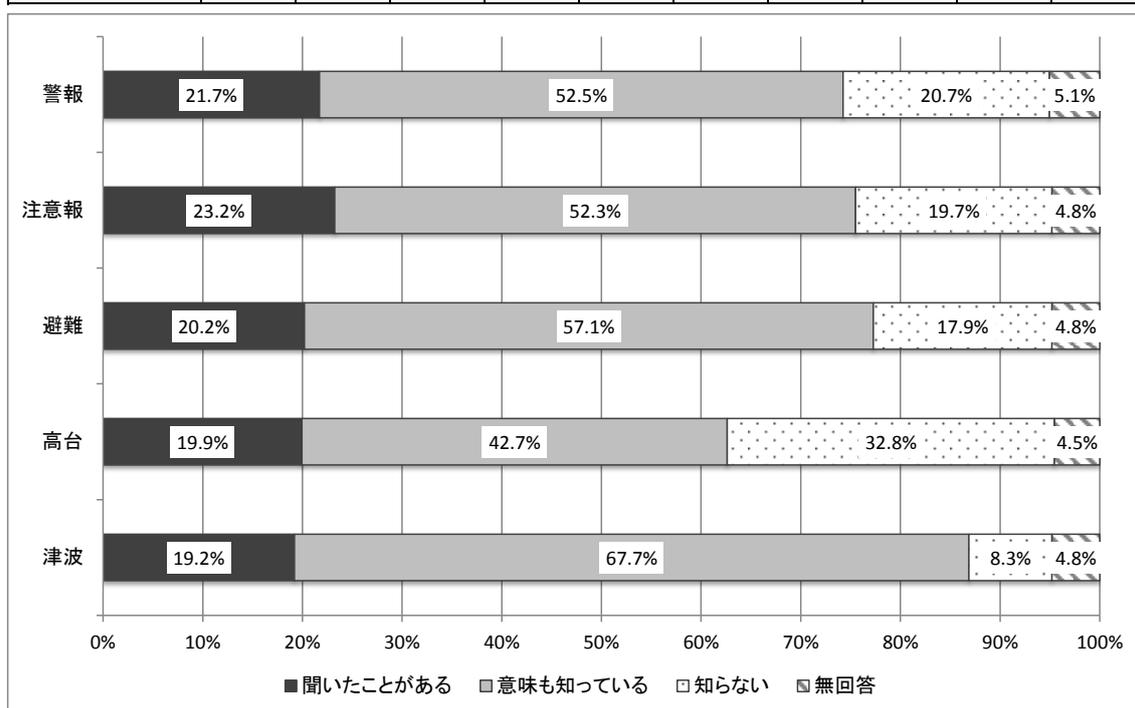


図 50 防災用語についての知識

日本の居住年数別、日本語能力別に防災用語の知識の分布を見ると、津波以外の用語については日本居住年数が長くなるほど知らないと回答した割合が低下する傾向が見られた。日本語を読む能力ではすべての防災用語で能力が高くなるほど知らないと回答する割合が低下した。日本居住年数が5年未満の人で高台を知らない割合は51%、避難を知らない割合は31%、注意報を知らない割合は36%、警報を知らない割合は38%となっているが、日本居住年数が20年以上の人では高台を知らない割合が11%となった以外は、すべての防災用語で知らない割合は10%未満となった。

日本語を読む能力が低い人では津波以外の防災用語を知らない割合は50%を超えたが、日本語を読む能力が高い人では高台を知らない割合が20%となった以外は、すべての防災用語で知らない割合は10%以下となった。

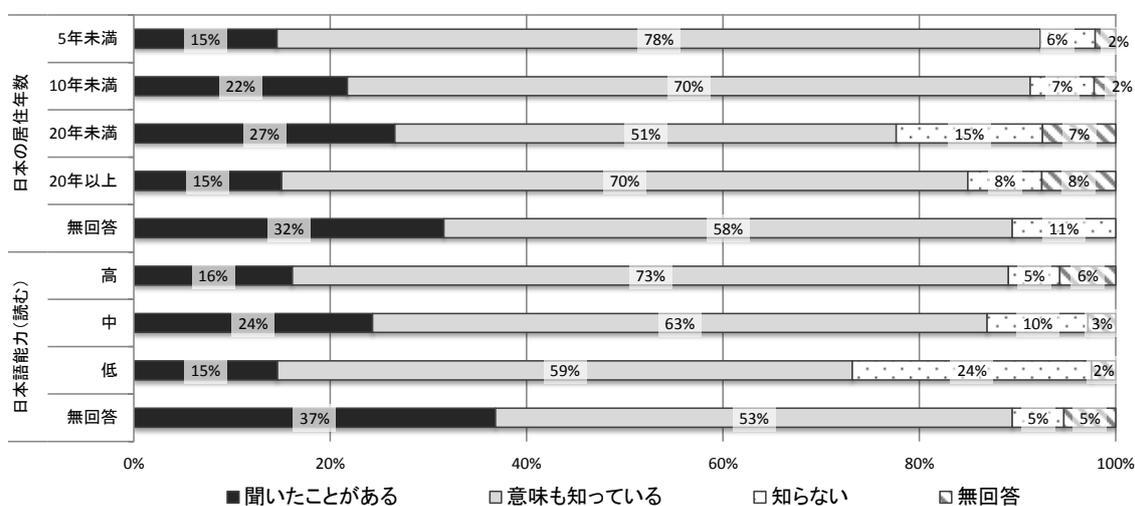


図50-2 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(津波)(N=396)

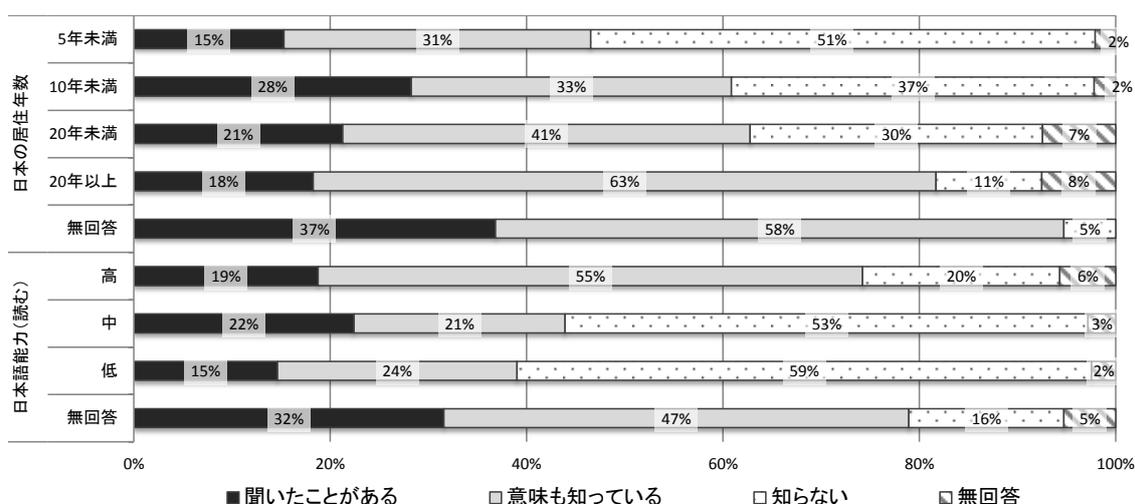


図50-3 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(高台)(N=396)

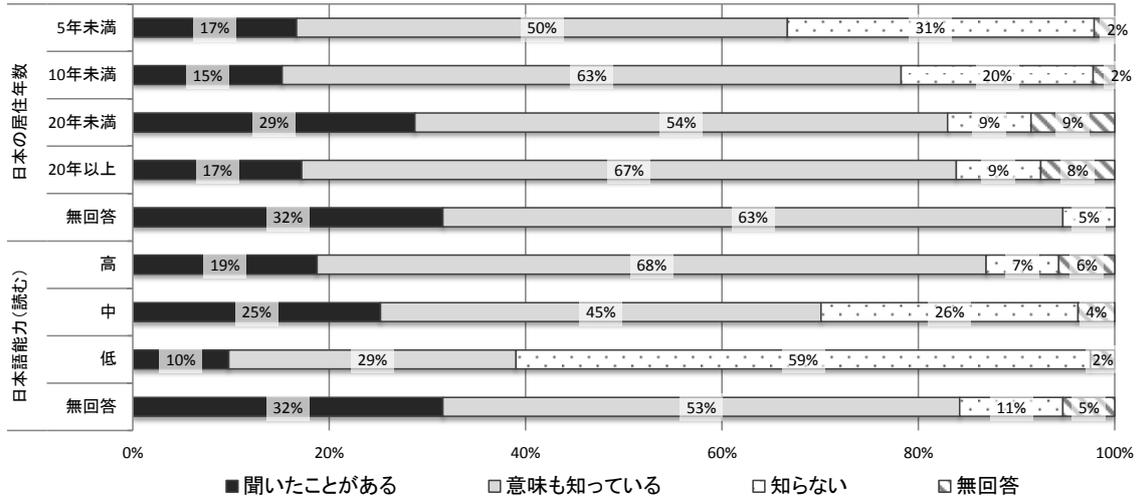


図50-4 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(避難)(N=396)

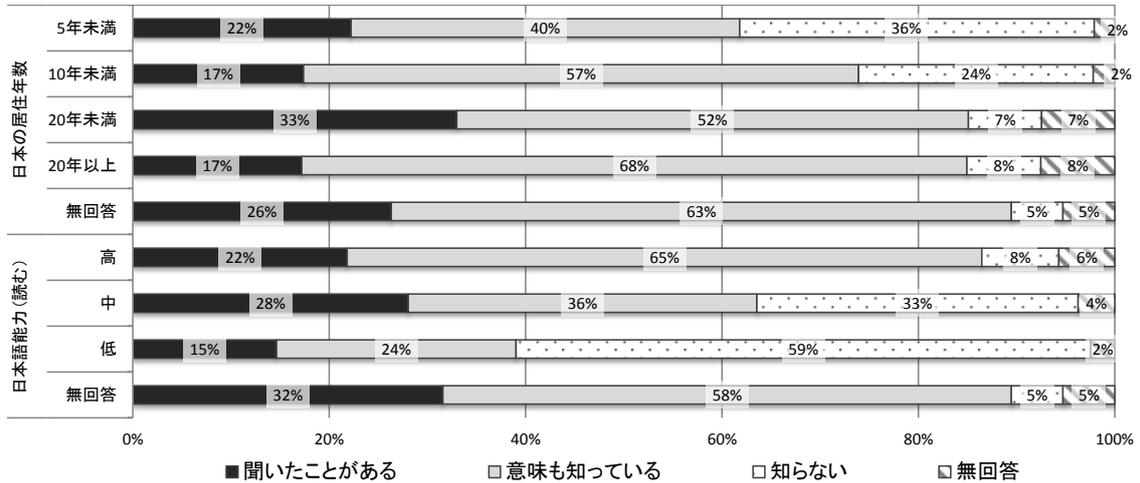


図50-5 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(注意報)(N=396)

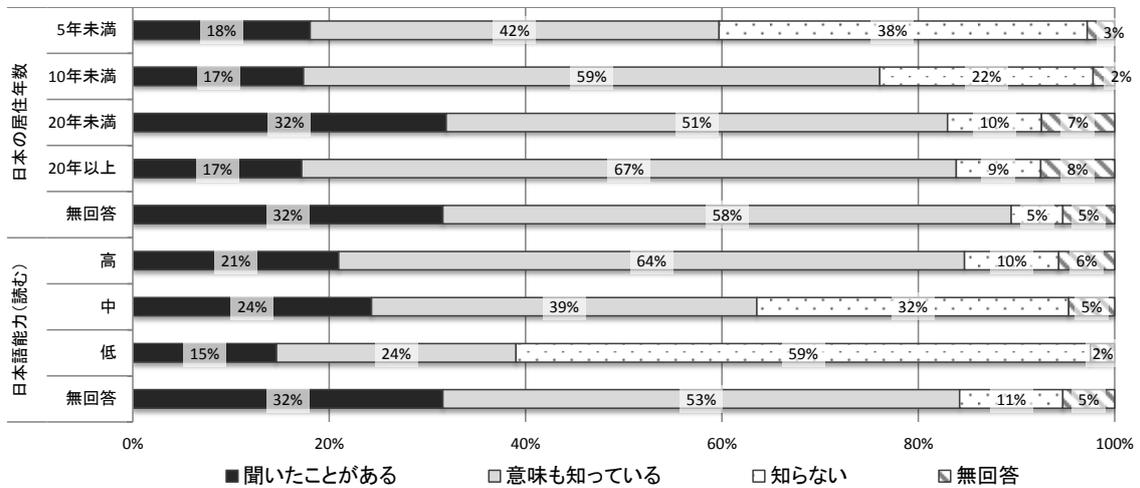


図50-6 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(警報)(N=396)

(51) 災害から身を守る方法

災害から身を守るために必要なものとしては、「防災用品を準備する」が74.2%と最も多くの人を選択している。次いで「災害に関する知識を身につける」が70.7%、「避難所の場所や避難経路を確認しておく」が64.4%、「住宅の耐震化や家具の固定を行う」が32.6%となっている。

問 51 災害から自分の身を守るために、必要であると感じていることは何ですか

(3つまで)

表 51 災害から身を守る方法

	N	%
防災用品を準備する	294	74.2%
災害に関する知識を身につける	280	70.7%
避難所の場所や避難経路を確認しておく	255	64.4%
住宅の耐震化や家具の固定を行う	129	32.6%
日ごろから近所との交流を持つ	74	18.7%
日本語の学習をする	72	18.2%
母国語での情報提供を受ける	58	14.6%
その他	4	1.0%
無回答	18	4.5%
計	396	100%

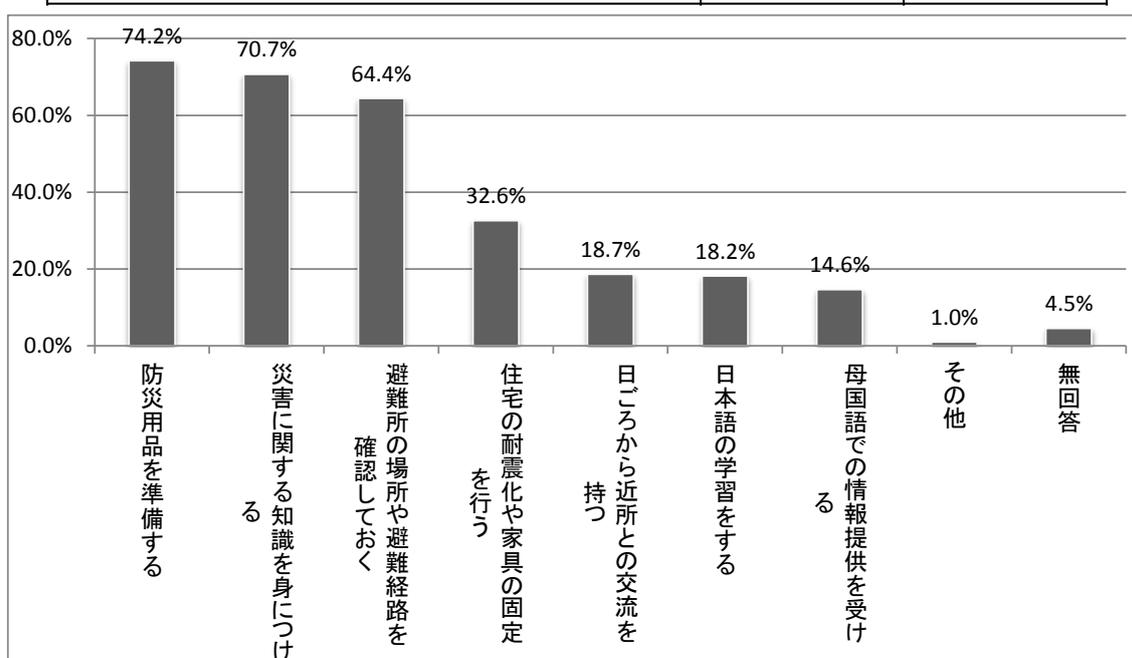


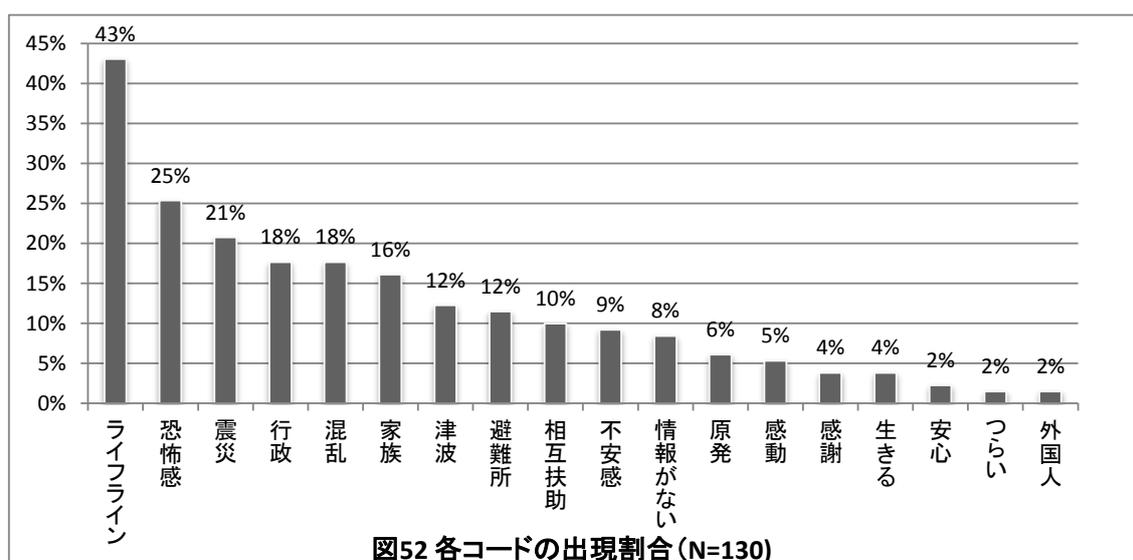
図 51 災害から身を守る方法

(52) 震災の経験で感じたこと【自由記述】

震災の経験についての記述から、よく用いられる要素を抽出し、以下の19個のコードを作り、これをもとに記述を分類すると、「ライフライン」に言及したものが最も多く、全体の43%にあたる。次いで、「恐怖感」に含まれる語に言及したものが25%、「震災」に言及したものが21%、「行政」、「混乱」にふれるものが18%となっている。

表 52 各コードの定義

震災	震災, 大震災, 東日本大震災, 災害という言葉が用いられているもの
津波	津波に言及している
原発	原発, 原子力, 放射線, 原発事故等に言及しているもの
ライフライン	ガス, 水道, 電気, ライフライン, 食料, 飲料がない, または, 不足していたことに言及しているもの
不安感	不安感, 心配, 不安, 心細いなどという記述があるもの
恐怖感	怖い, 恐ろしい, ショック, 心細いなどの記述があるもの
つらい	悲しい, つらい, 苦しいなどの記述があるもの
感動	素晴らしい, すばらしい, 感動, 感激などの記述があるもの
感謝	感謝またはありがたいという記述のあるもの
情報がない	情報がないという記述があるもの
行政	行政, 日本政府, 国などの記述があるもの
安心	安心, 安心感, 落ち着くなどの記述があるもの
近所の人	町内会, 隣人, 周りの人などの記述があるもの
相互扶助	相互扶助, 助け合う, 絆などの記述があるもの
避難所	避難所または避難という記述のあるもの
混乱	混乱, パニック, ショックなどの記述があるもの
外国人	外国人または外国人住民という記述があるもの
家族	家族, 配偶者, 夫などの記述があるもの
生きる	生きる, 命という記述があるもの



各コード間の関連、また、居住地域ごとに現れるコードに違いがあるのかをみると、「震災」、「ライフライン」、「家族」、「恐怖感」などについての記述は地域を超えて共通する一方、各地域に特有の記述もある。以下では、各地域の回答者の記述の中で特徴的なものをあげながら、各地域の特徴をみていく（回答者の記述については編集なし）。

【仙台市】

「津波」、「相互扶助」、「不安感」についての記述が多く見られたほか、「避難所」、「家族」などにも言及されているケースが見られる。

ライフラインの復旧状況の知らせが遅いと感じた。我家では、高齢の母が（90才代）いるので、特に電気の復旧は大切に思えた。被害の大きかった（津波等、家屋の損壊による被害者）地域には、マスコミによる情報も早いし、光も当たるが、他の軽い被災者には、余りなかったとように感じた。又、行政の対応ももう少し素早く迅速かつ正確な流れがほしかった。緊急時は、何かと誤報が多く、いかに正しい内容の情報がと思えてならなかった。（特別永住者）

私は女川町の海の近くに住んでいたため、津波で家など全て流されてしまいました。被災中は住む家もなく仕事もなく困窮した生活を送りました。（永住者）

自然災害の恐ろしさ、互いに助け合う共助の必要性。（永住者）

①震災後（3月13日）、海の近くに行ってきました。流木と泥に半分埋まった家を見て、涙をながしました。②日本政府行動力（・各小学校、中学校、避難場所などで食べものと飲みものをもらうこと・電気、ガスなどの回復、及び、地震後仙台市と隣の市、県、街のともと姿へのもどり）。③今でも、福島放射能の心配。（日本人の配偶者等）

特に子供のことを思うと、最初はとても怖かった。しかし、その後地元の人々の反応を見て、日本人の生き方を理解した。私はより我慢強くなり、地震に備えるようになった。結局のところ自然災害なのだから。（家族滞在）

【仙南地域】

「情報がない」が最も多く、「原発」への言及も見られた。「生きる」についても言及されている。

英語の情報なかった。地震発生後しばらくの間は情報を手に入れることができなかった。（永住者）

防災訓練に参加したことがあるので助かりました。情報がなかなか届けなかったので、正しい行動が難しかったです。(永住者)

原発事故に関する情報が不足していた。(永住者)

自分の身は自分で守る。人は簡単に死ぬ。(特別永住者)

【仙台地域】

「感動」、「感謝」へ言及している割合が他の地域と比較して高く見られた。このほか「相互扶助」についても多く触れられている。

今回の地震でとても感動したのが、日本人の教養や気質。とても素晴らしい。(定住者)

日本の国、震度は別にして地震が頻繁に起きる。3.11のような想像以外の強い地震が一生忘れられないぐらい。特に避難中の人々達が国籍を問わず、お互いに助けあう様子を見たらとても感動した。(永住者)

地域の人々に従った。どうしたらいいかわからなかったが、アドバイスをもらったら我に返った。ありがとうございました。(技能実習)

【大崎地域】

「感謝」、「生きる」について言及されていたほか、「ライフライン」、「行政」についても触れられている。

人とのつながりの大切さ。協力し合うこと。インフラ復旧の遅さ、自宅マンションの水道設備故障に伴う不便さ。(特別永住者)

日本の文化やマナーを学ぶのに近所の人とのコミュニケーションが大変重要だと思った。私たちはひとつになったし、助け合いはとても感謝すべき経験となった。(永住者)

初めて体験する地震だったので、とても怖かったし衝撃を受けた。当時は帰国したいと思った。(定住者)

【栗原地域】

「震災」について多く言及しているケースが見受けられた。

とても怖かったです。ノイローゼになりました。地震が起きるたびにびっくりします。東日本大震災を思い出したら今でも涙が出ます。(永住者)

震災後、私の地域は落ち着いていて秩序が保たれていたのが助かった。そして近所の人たちはお互いに協力しあっていた。(特別永住者)

【登米地域】

「原発」への言及が多く見られたほか、「感謝」や「生きる」のキーワードに関連した記述が見られた。

たいへん、こわかった。たてものはゆれたけど、こわれなかったのでのちは、たすかった。しょうがっこうへひなんして、とまるどころと、たべものが、あったのでたいへんありがたかったです。じしん、つなみはてんさいですが、ふくしまのげんぱつは、あんぜんたいさくがふじゅうぶんで、あきらかに、じんさいです。てんさいより、じんさいのほうがこわいとおもいました。(永住者)

地震後、しばらく近くの小学校に避難しました。避難中、中華料理店を営んでいる10人ほどの中国人と知り合いました。彼らはあまり日本語が得意ではなかったので、私が通訳しました。通訳しながらボランティアにも参加しました。近くの仮設住宅に避難していた日本人に中華料理を配りました。外国人支援団体にも参加して、各地からの支援物資を住民たちに配りました。誰しもがお互いに助け合って避難生活を乗り越えました。国は違うけれど、困難に立ち向かう人々の熱心さにとても感動しました。(永住者)

山形に避難しました。放射能が怖くて、主人と義母と3人で山形のホテルで1週間を過ごしました。地震は怖いですが、日本にいたいし、愛する主人と義母と一緒に幸せです。日本政府には感謝しています。(永住者)

【石巻地域】

「家族」に対する言及や、「恐怖感」、「不安感」と言ったキーワードに関連する記述が多く見られた。

マレーシアでは地震がよくある現象ではないので、最初はショックを受けた。災害対策について聞いたことがなかったため、どうしたらよいかわからなかったが、今は地震が起こったときの安全対策について詳しく聞いているので、いざという時にはどうしてよいかわかっている。(留学)

一人で部屋にいて、本当に怖かったです。(永住者)

怖い。家族の心配・・・。(日本人の配偶者)

【気仙沼地域】

「行政」についての記述や、「混乱」、「情報がない」といったことに言及しているケースが多く見られた。

当時新潟県にいた。地震を感じてショックだった。あのような種類の地震を経験するのは初めてだったので、私も家族も不安になった。家族からすぐに帰国するように言われたが、断って震災の問題に向き合った。宮城に住んでいた友人に食料を運んだ。(技術・人文知識・国際業務)

日本人の規則意識が素晴らしかった。初めての大地震で母国に帰らず、停電や断水にも耐えましたが、もしもう一度このような大地震が発生したら、すぐ韓国に帰ります。(永住者)

情報が入らなかった。(永住者)

1 1 行政

(5 3) 行政施設を利用する上で困ったこと

行政施設を利用する上で困ったことについては、「ほとんどない」と回答する割合が 35.6%、「まったくない」と回答する割合が 34.1%であり、約 70%の人が問題をあまり感じていない。一方、「よくある」と回答する割合は 3.5%、「時々ある」と回答する割合は 22.5%となっている。

問 53 市役所や町役場、入国管理局などの行政の施設を利用するうえで、
困ったことがありますか

表 53-1 行政施設を利用する上で困ったこと

	N	%
よくある	14	3.5%
時々ある	89	22.5%
ほとんどない	141	35.6%
まったくない	135	34.1%
無回答	17	4.3%
計	396	100%

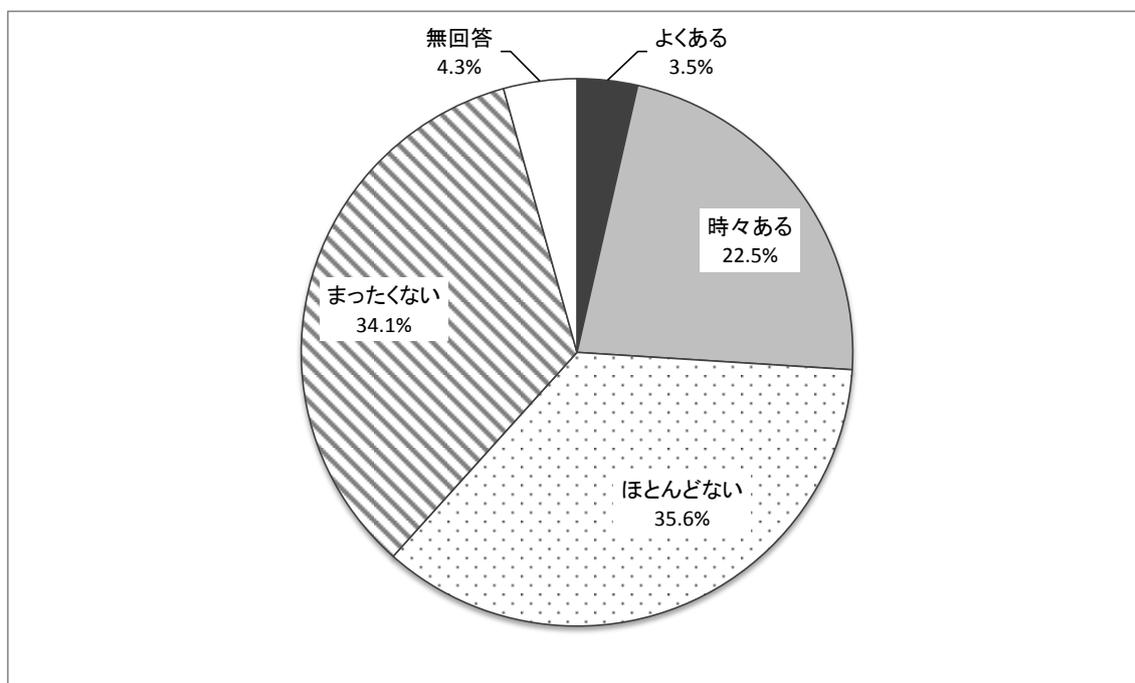


図 53-1 行政施設を利用する上で困ったこと

困ったことが「よくある」または「時々ある」と答えた人に対して、具体的な内容を聞いたところ、最も多かったのは「色々な書類をそろえるのが難しい」で53.4%、次いで「書類の内容、書き方がわからない」および「どのようなサービスがどこで受けられるのかわからない」が各39.8%、「窓口で言葉が通じない」が22.3%となっている。

表 53-2 どのようなときに感じたか

	N	%
色々な書類をそろえるのが難しい	55	53.4%
書類の内容、書き方がわからない	41	39.8%
どのようなサービスがどこで受けられるのかわからない	41	39.8%
窓口で言葉が通じない	23	22.3%
施設の場所、利用時間などの情報が入手できない	10	9.7%
その他	20	19.4%
無回答	4	3.9%
計	103	100%

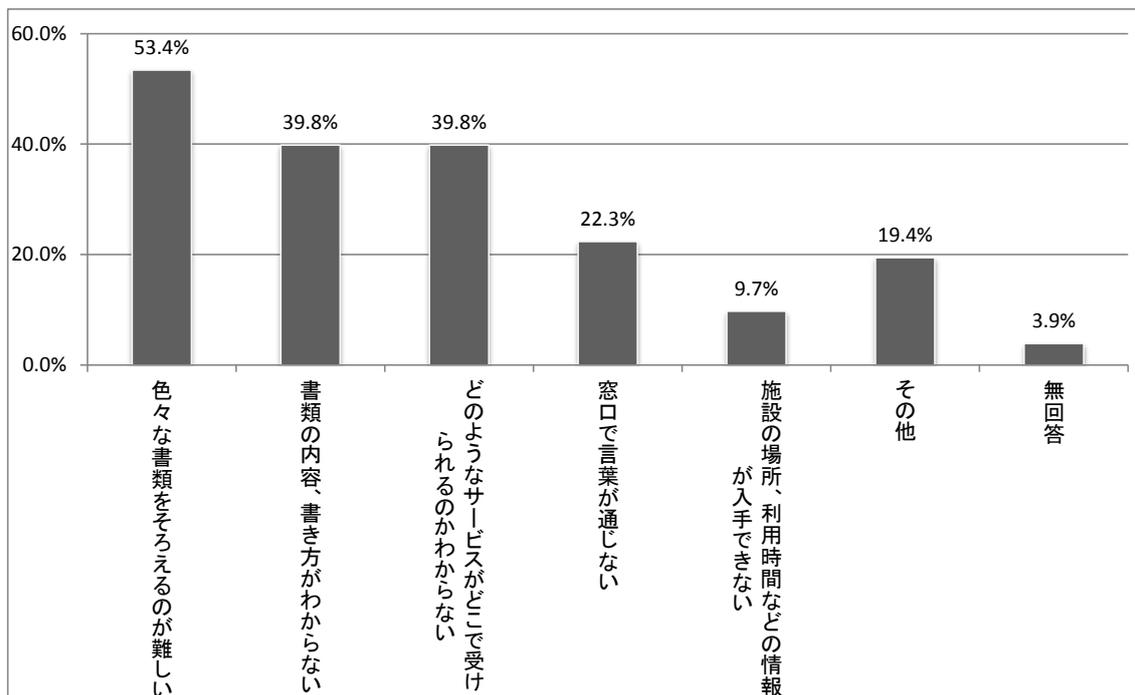


図 53-2 どのようなときに感じたか

国籍別に見ると、よくある、時々あると回答した割合は韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、インドネシア籍で30%以上となっている。これに対して、ほとんどない、まったくないと回答した割合は中国籍、ベトナム籍、米国籍で70%を超えている。

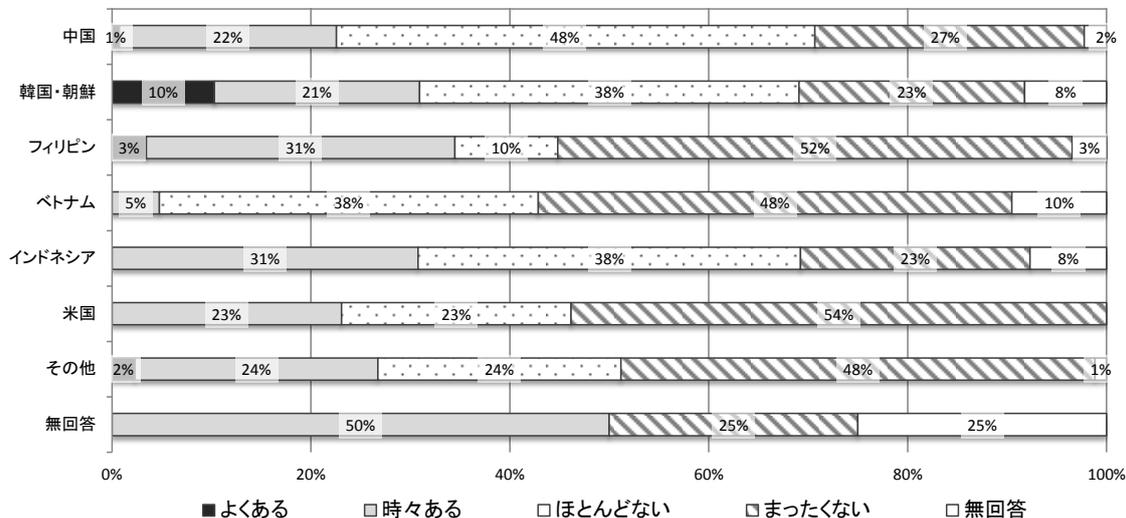


図53-3 国籍別行政施設利用で困ったこと(N=396)

在留資格別に見ると、よくある、時々あると回答した割合は日本人の配偶者が最も割合が高く49%となっており、永住者、特別永住者でも30%を超えている。これに対して、ほとんどない、まったくないと回答した割合は留学、技能実習、技術・人文知識・国際業務、教育、定住者で80%を超えている。

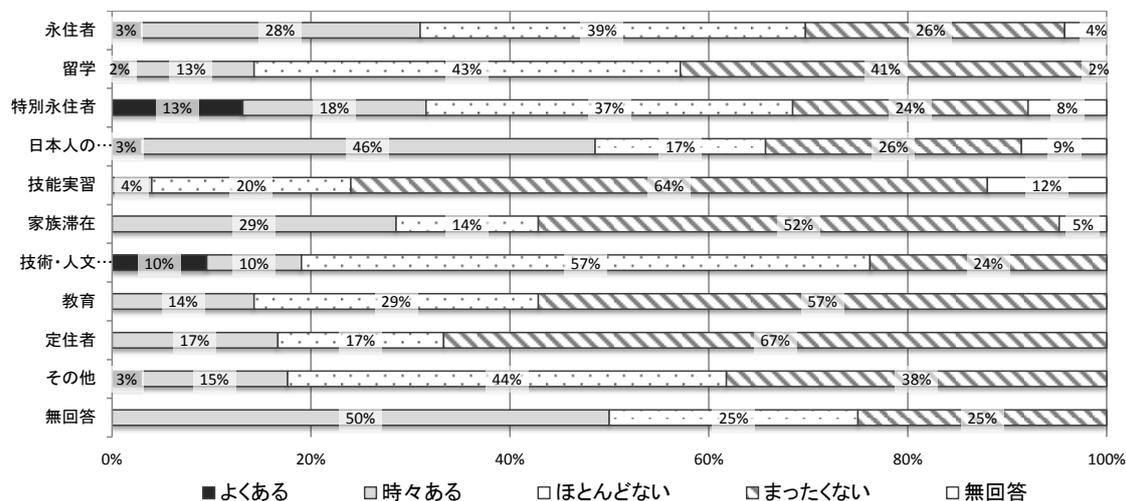


図53-4 在留資格別行政施設利用で困ったこと(N=396)

(54) 充実してほしい行政情報

行政に充実してほしい情報として最も多く挙げられているのは、「税金、健康保険、年金」で36.9%が選択している。次いで「病院・医療」が30.3%、「就職、雇用」が23.5%、「事故や災害など緊急時の対応」が22.2%となっている。

問 54 行政が提供する情報のうち、充実してほしい情報はありますか (3つまで)

表 54 充実してほしい行政情報

	N	%
税金、健康保険、年金	146	36.9%
病院・医療	120	30.3%
就職、雇用	93	23.5%
事故や災害など緊急時の対応	88	22.2%
在留資格、住民登録	66	16.7%
教育制度・学校	64	16.2%
ゴミの出し方	52	13.1%
地域での交流イベントや祭り・町内会行事	51	12.9%
外国語で相談できる窓口	49	12.4%
地域の日本語を学べる場所	48	12.1%
出産・育児	42	10.6%
通訳・翻訳などのボランティアに参加する方法	36	9.1%
公共交通機関	33	8.3%
公営住宅	26	6.6%
その他	4	1.0%
とくになし	63	15.9%
無回答	23	5.8%
計	396	100%

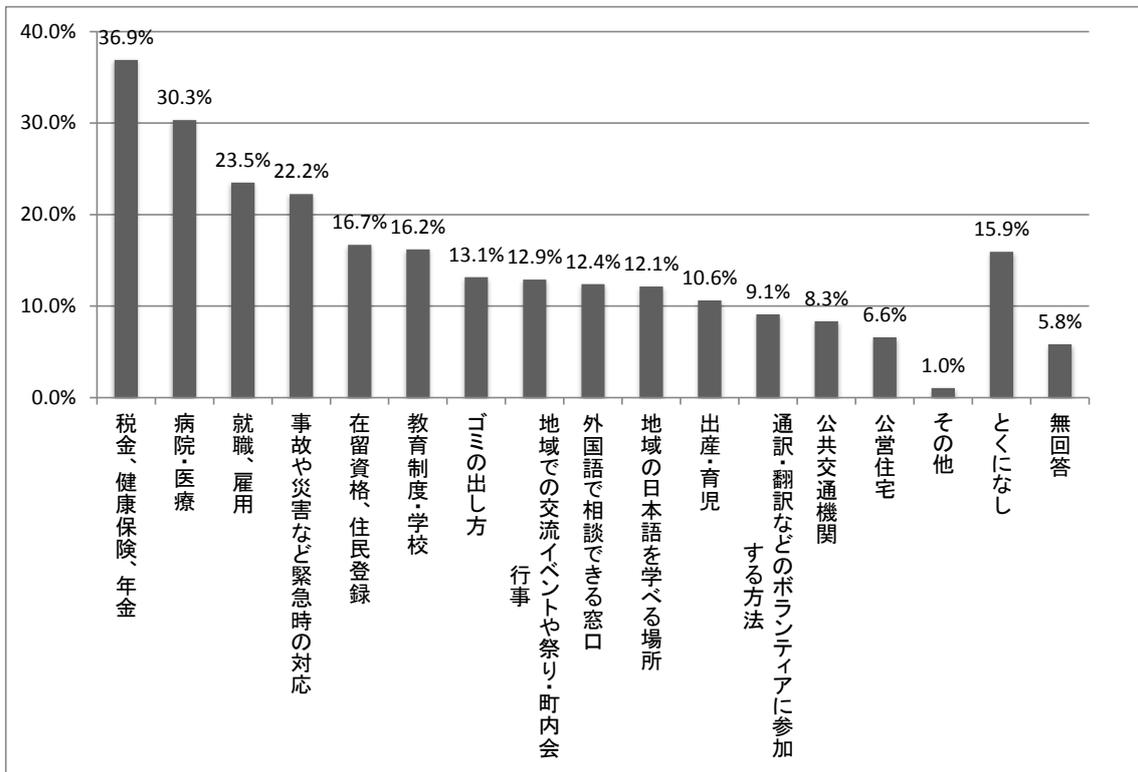


図 54 充実してほしい行政情報

充実してほしい情報として税金・健康保険・年金をあげる人の割合を見ると、年齢別では80歳代が最も多く67%となった。30歳代、40歳代、50歳代では40%を超えたが、60歳代、70歳代では割合が低下している。日本居住年数別に見ると居住年数によって大きな差は表れなかった。在留資格別では、家族滞在と定住者で50%を超えたのに対して、教育では14%と低い割合になっている。

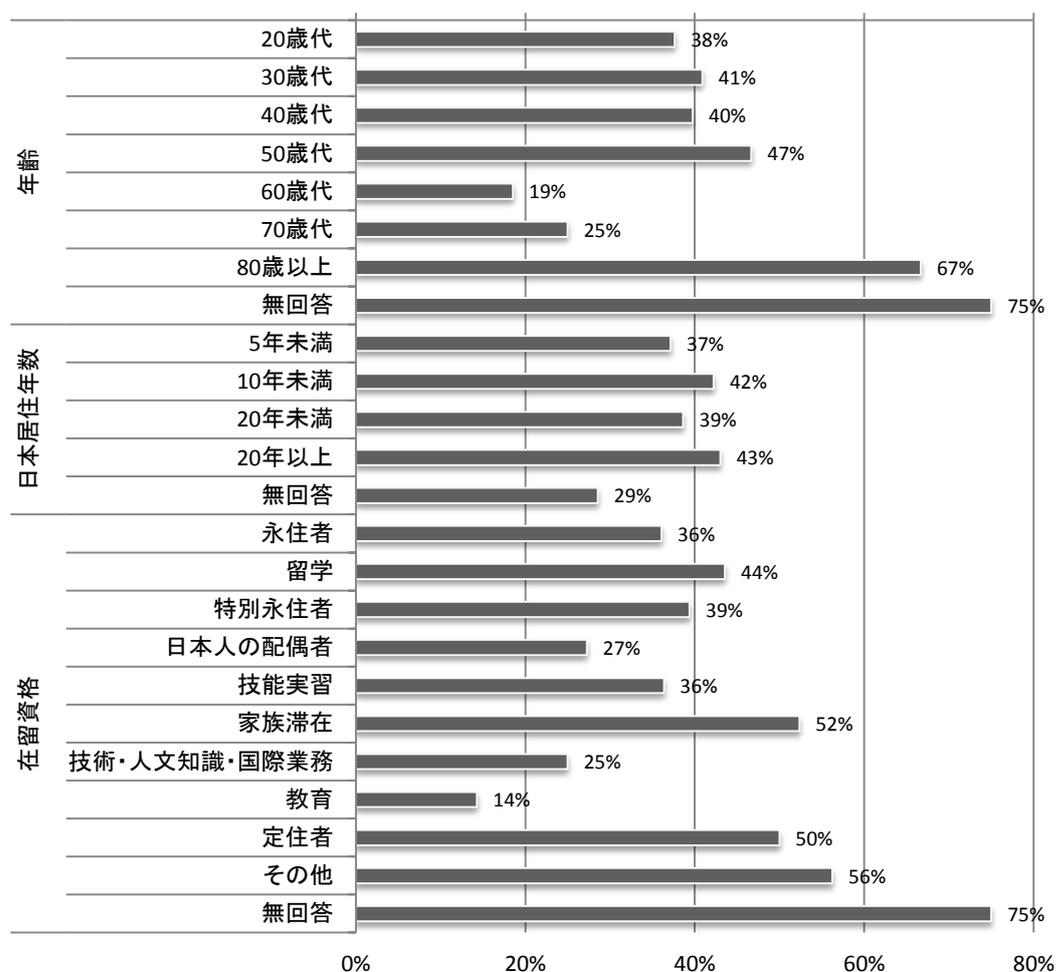


図54-2 税金・健康保険・年金を重視する割合 (N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として病院・医療をあげる人の割合を見ると、国籍別ではフィリピン籍が最も多く46%となったほか、中国籍、インドネシア籍、米国籍で30%以上となった。在留資格別では、定住者で50%、家族滞在で40%となったが、技能実習では9%と割合が低くなった。日本語を読む能力別では、日本語を読む能力が低い人では47%となったのに対して、日本語を読む能力が高い人では28%と割合が低くなっている。

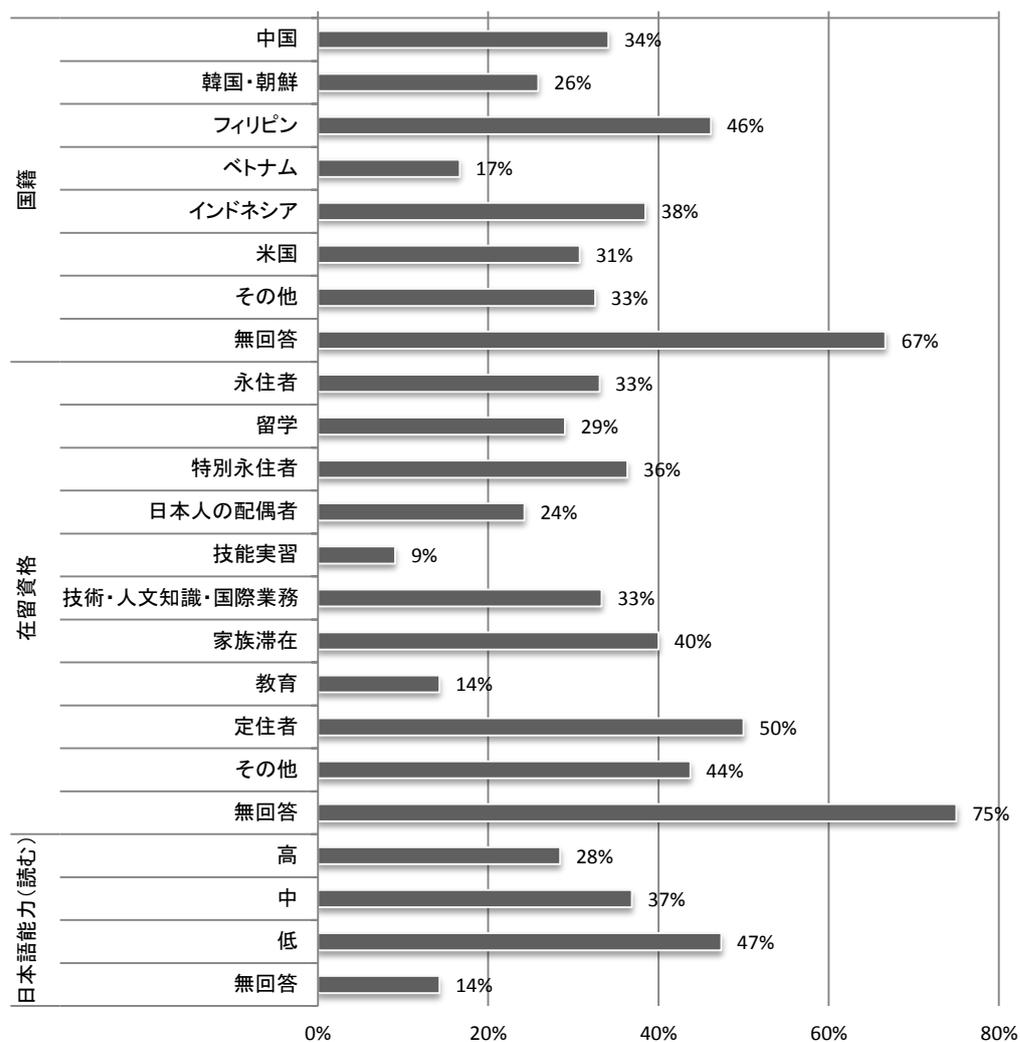


図54-3 医療・福祉を重視する割合(N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として就職・雇用をあげる人の割合を見ると、雇用形態別では無職で仕事を探しているが50%と他の雇用形態と比べて割合が高くなった。在留資格別では家族滞在が40%、日本人の配偶者が33%となったのに対して、技能実習では9%、定住者では回答がなかった。

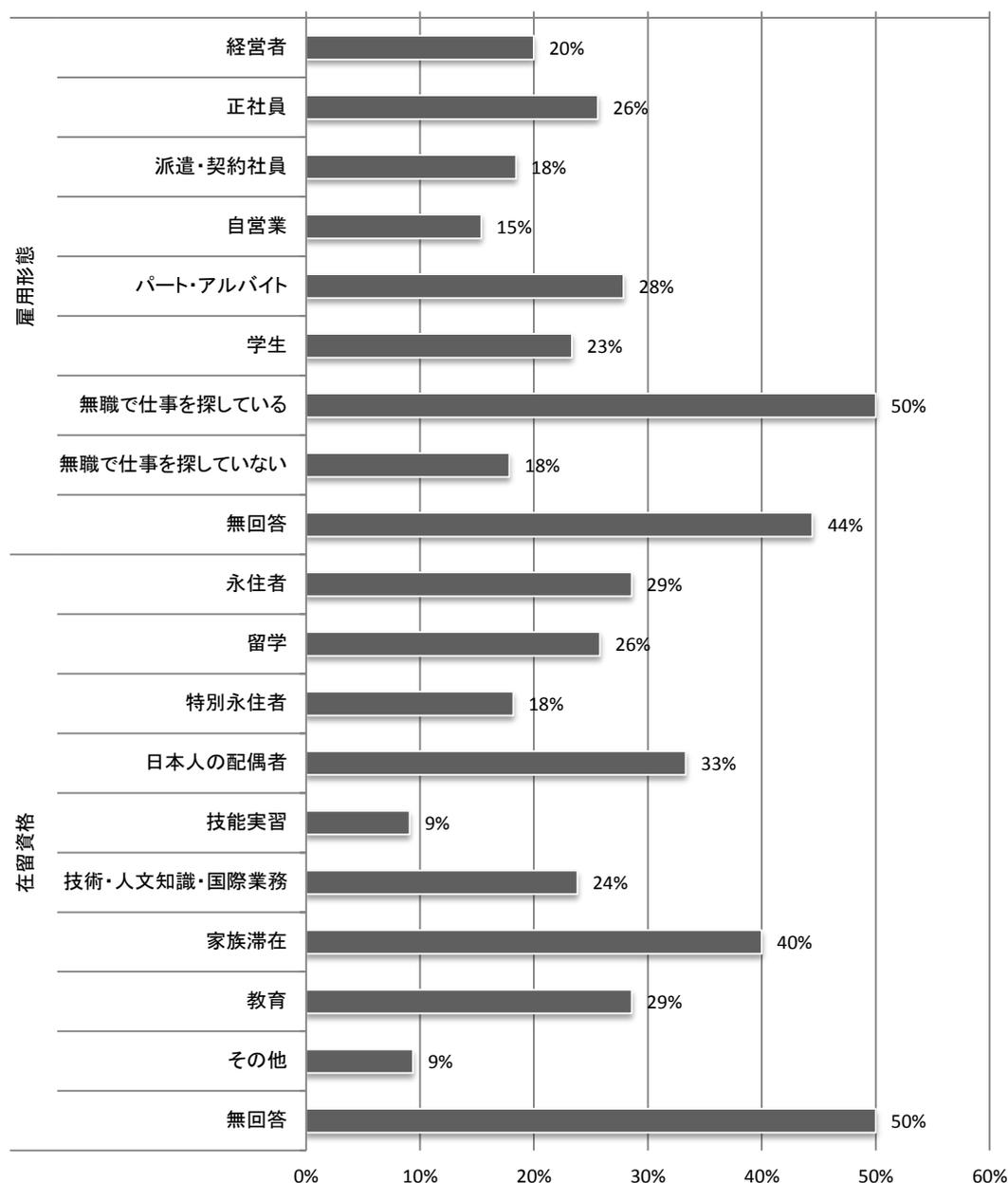


図54-4 就職・雇用を重視する割合 (N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として事故や災害など緊急時の対応をあげる人の割合を見ると、年齢別では80歳以上で回答がなかったほか、他の年齢区分により大きな差は表れなかった。日本語を読む能力別でも能力の高低によって大きな差は見られない。日本居住年数別では20年未満が28%と最も高い。

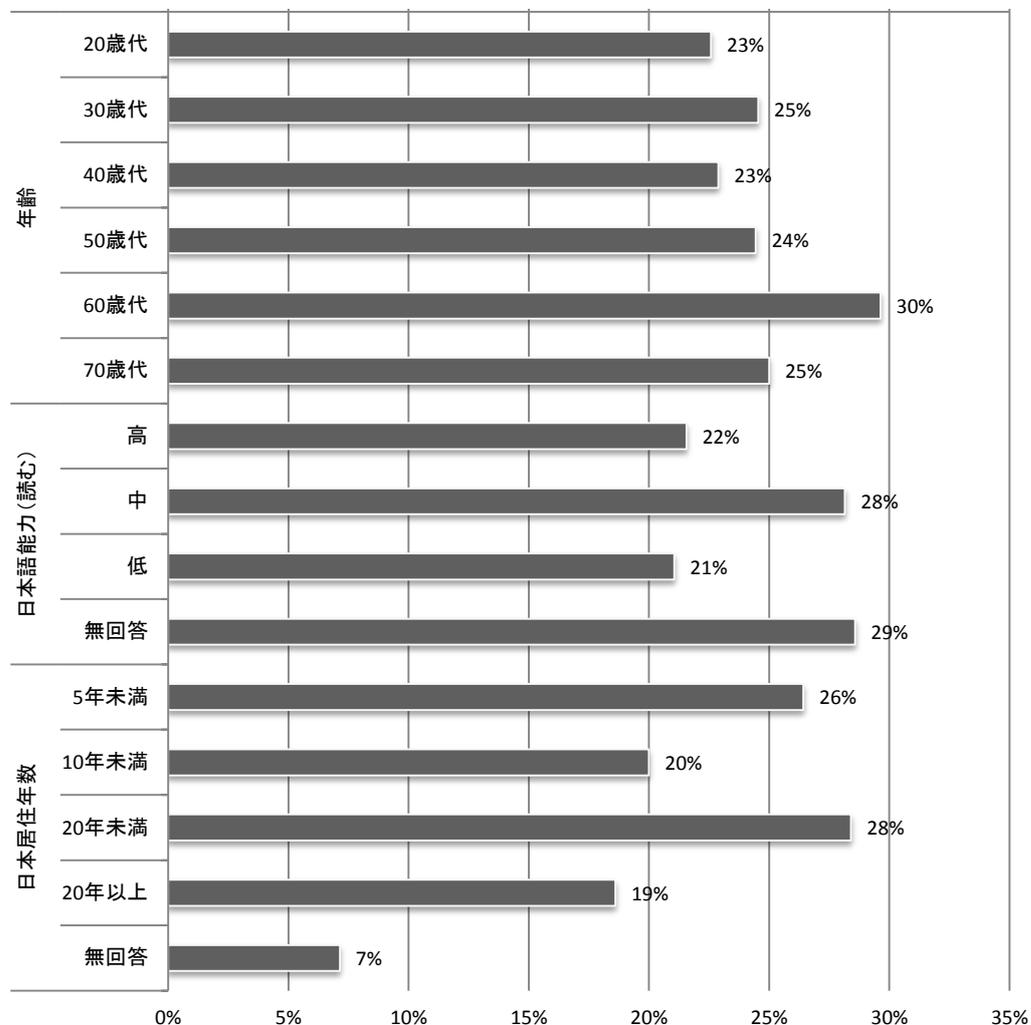


図54-5 災害・事故などの緊急時の対応を重視する割合(N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として教育制度・学校をあげる人の割合を見ると、居住形態別では子どもありの人では32%となるのに対して、他の居住形態では10%以下に留まっている。国籍別では中国籍で26%となったのに対して、ベトナム籍、米国籍では回答がなかった。

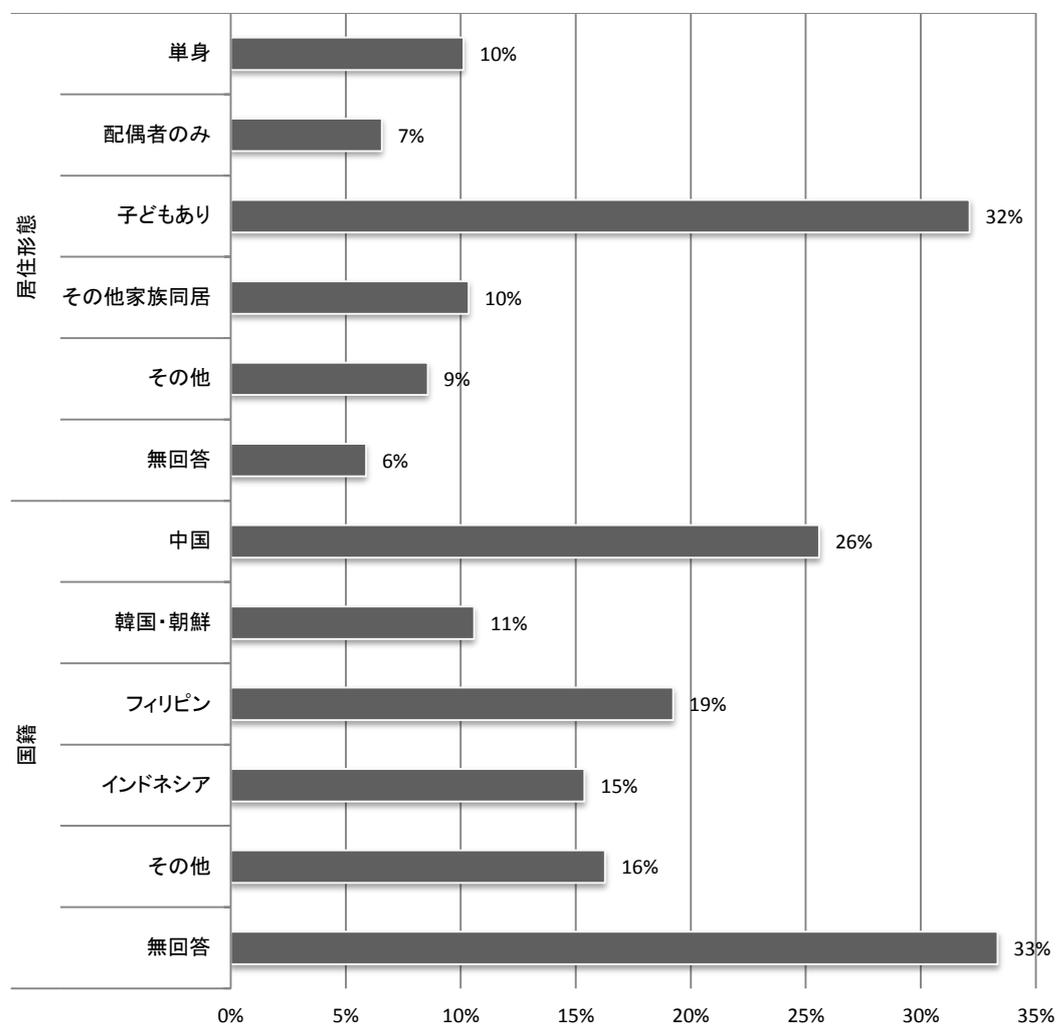


図54-6 教育制度・学校を重視する割合(N=373、問54に無回答の回答者を除く)

(55) 行政に求めること

行政に求めることを見ると、「外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」と「外国籍住民の就職を支援する」をあげる人が各 37.4%と最も多く、次いで、「外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やす」が 27.5%、「外国語の生活情報の提供を充実させる」および「外国籍住民の住宅入居を支援する」が各 24.7%、「日本人住民の異文化理解を進める」が 23.5%となっている。

問 55 在住する外国籍住民にとって暮らしやすいまちになるためには、
行政はどのようなことをすればよいと思いますか (3つまで)

表 55 行政に求めること

	N	%
外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる	148	37.4%
外国籍住民の就職を支援する	148	37.4%
外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やす	109	27.5%
外国語の生活情報の提供を充実させる	98	24.7%
外国籍住民の住宅入居を支援する	98	24.7%
日本人住民の異文化理解を進める	93	23.5%
外国籍住民の意見を行政に生かすための制度づくり	67	16.9%
外国語の相談窓口を充実させる	62	15.7%
外国語の案内表示を増やす	52	13.1%
子どもの教育における外国語サポートを充実させる	45	11.4%
日本人住民の外国語学習を支援する	31	7.8%
その他	15	3.8%
無回答	32	8.1%
計	396	100%

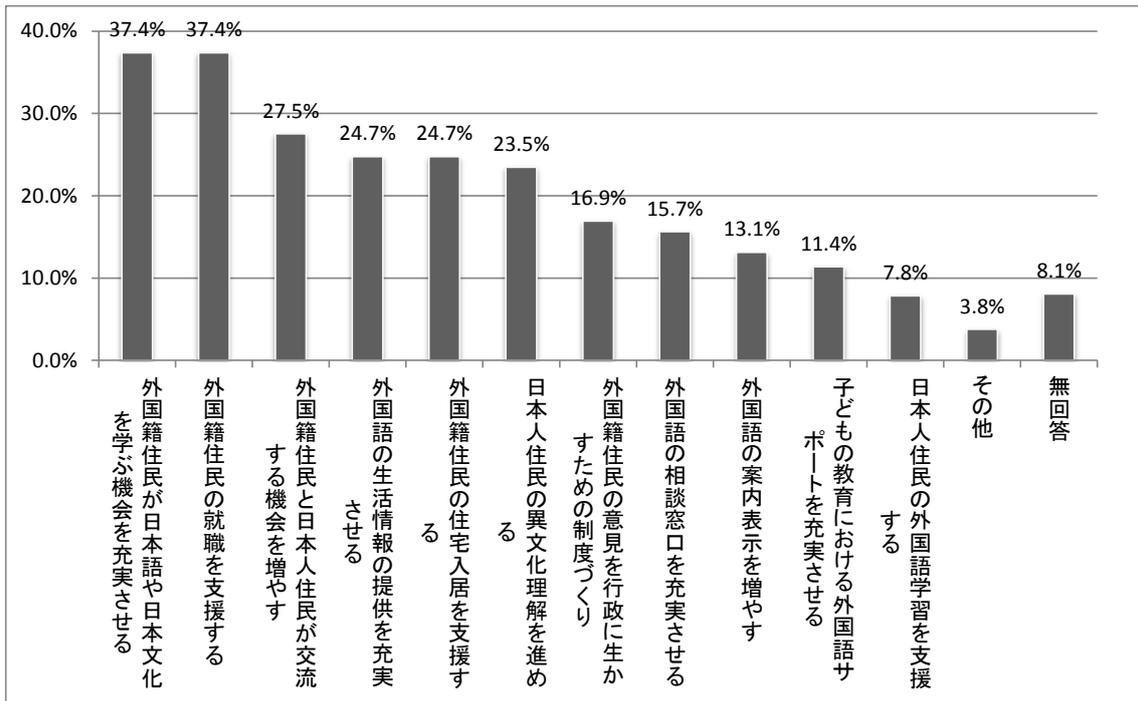


図 55 行政に求めること

行政に求めることとして外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させることをあげる人の割合は、雇用形態別では正社員、派遣・契約社員、学生、無職で仕事を探している、無職で仕事を探していないで40%を超えたのに対し、経営者では20%となっている。国籍別ではベトナム籍が83%と割合が高いが、韓国・朝鮮籍、米国籍では30%未満となっている。

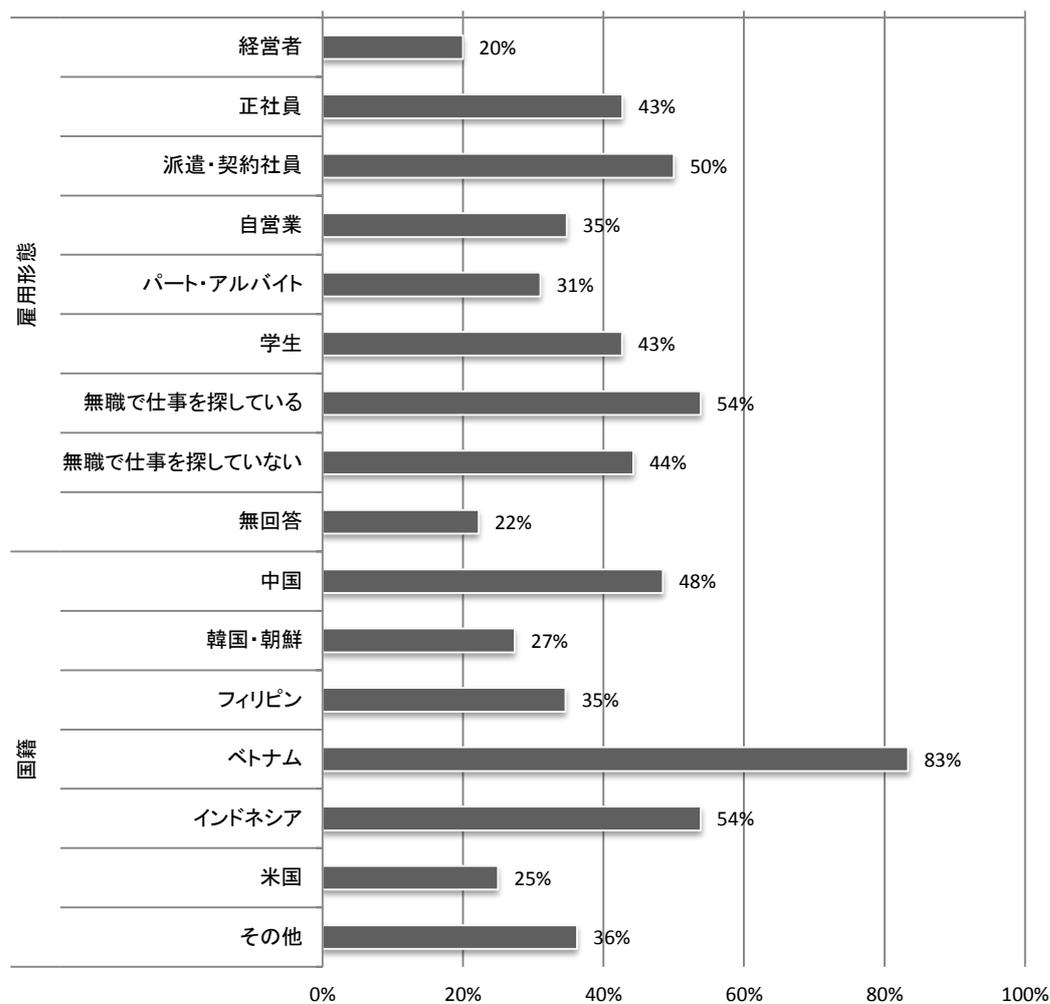


図55-2 行政への希望として日本語・日本文化学習機会の充実を挙げる割合
(N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして就労支援をあげる人の割合は、雇用形態別では無職で仕事を探している人が65%と割合が最も高くなった。国籍別では韓国・朝鮮籍が57%、フィリピン籍が46%となったが、ベトナム籍では11%と他の国籍と比較して割合が低い。在留資格別では日本人の配偶者、家族滞在、定住者が50%以上となったが、技能実習で9%、教育で14%と他の在留資格と比較して割合が低い。

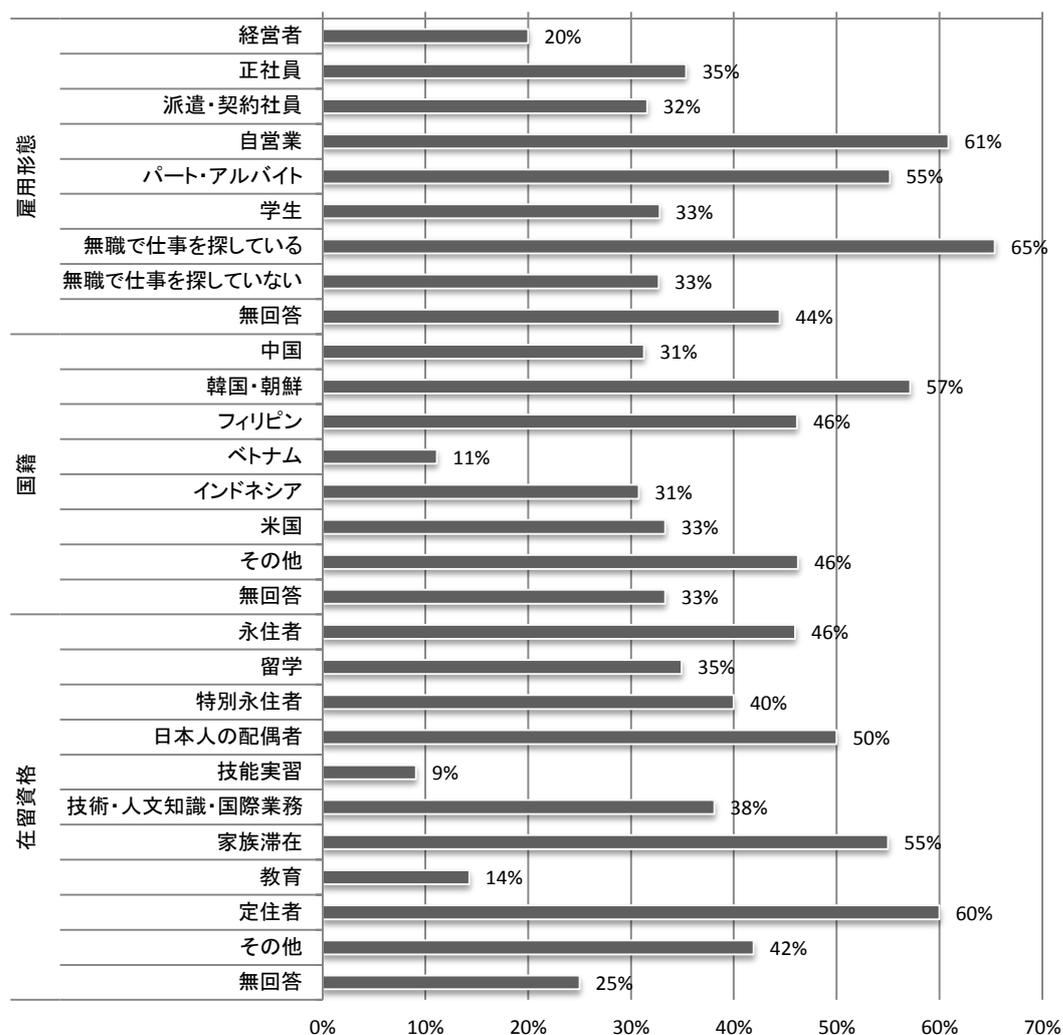


図55-3 行政への希望として就労支援を挙げる割合 (N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やすことをあげる人の割合は、経営者、正社員、学生、無職で仕事を探しているで 30%以上となったが、自営業とパート・アルバイトでは 20%未満となった。日本居住年数別では 5 年未満、10 年未満で 30%を超えたが、20 年以上では 24%となっている。

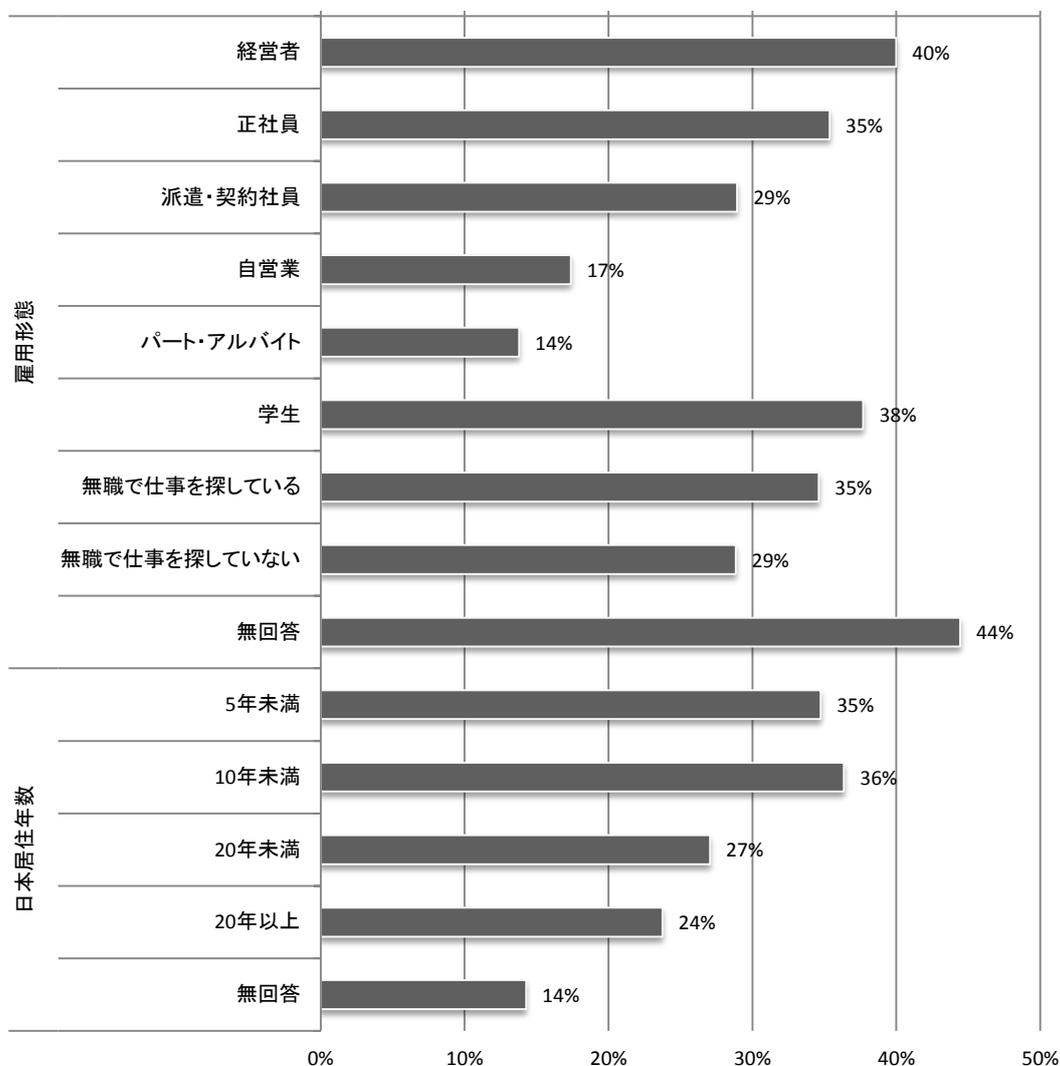


図55-4 行政への希望として日本人との交流機会の増加を挙げる割合 (N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして外国語の生活情報の提供を充実させることをあげる人の割合は、在留資格別では留学、教育では 40%を超えたものの、特別永住者、日本人の配偶者、技能実習、技術・人文知識・国際業務では 20%未満となっている。日本語を読む能力別では能力の高低によって大きな差は見られなかった。

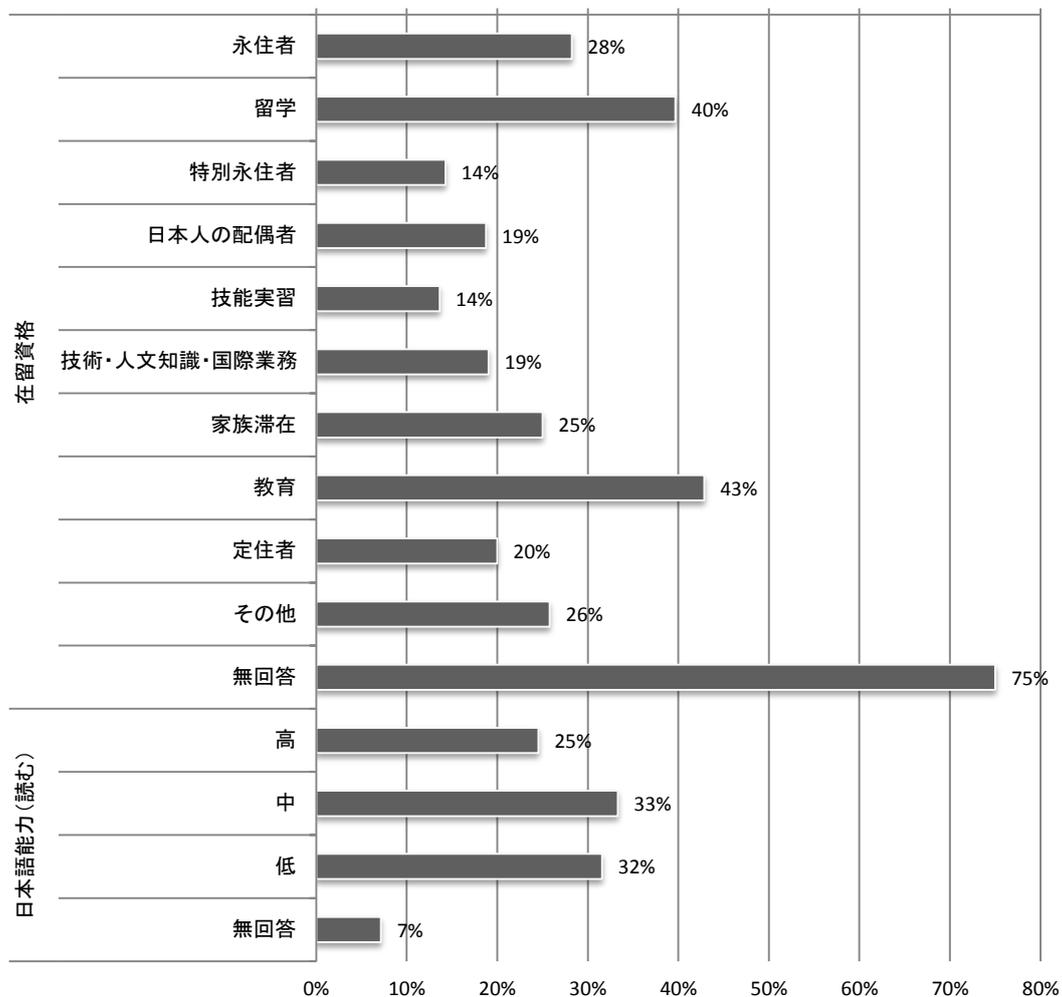


図55-5 行政への希望として生活情報の提供を挙げる割合 (N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして外国籍住民の住宅入居を支援することをあげる人の割合は、在留資格別では技術・人文知識・国際業務で48%となったのに対して、技能実習では9%と割合が低くなった。日本語を読む能力別では能力の高低によって大きな差は見られなかった。

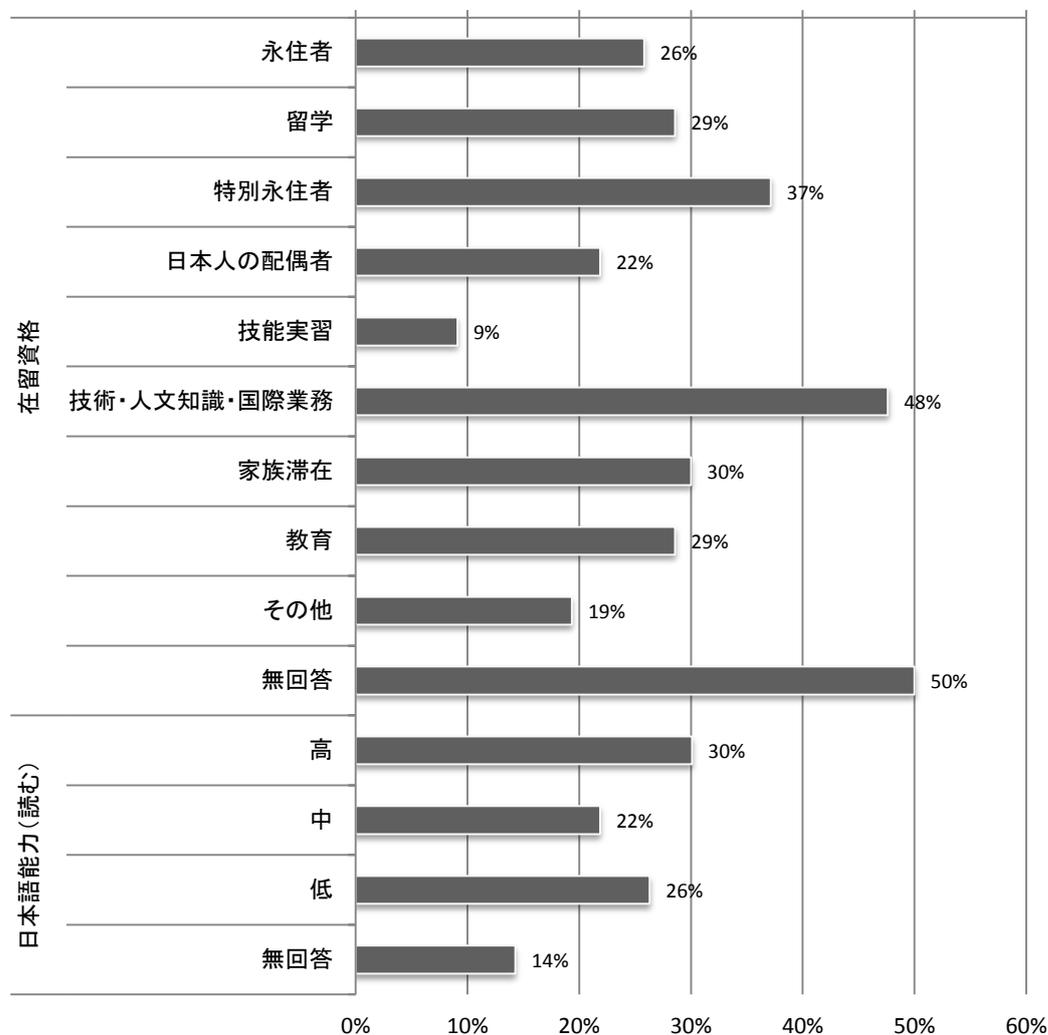


図55-6 行政への希望として住宅入居の支援を挙げる割合(N=364、問55に無回答の回答者を除く)

(56) 生活で困っていること・行政に取り組んでほしいこと【自由記述】

生活で困っていることや行政に取り組んでほしいことについての自由記述に、以下のよう
にコードをつけて分類した。各コードの出現率をみると、「交流」が18%で最も多く、次
いで「日本語の困難」、「差別」が17%となっている。以下、「教育」、「労働条件」、「保険関
係」が多く挙げられている。

表 56-1 各コードの定義

教育	学校, 子ども, 教育などに言及しているもの
仕事	仕事がない, 就職などに言及しているもの
夫婦	夫または妻に言及しているもの
保険関連	保険や年金, 税金などについて言及しているもの
日本語の困難	日本語にかかわる問題や日本語学習の機会に言及しているもの
幸せ	現状への満足に言及しているもの
差別	差別, 偏見などに言及しているもの
交流	日本人との交流機会や相互理解に言及しているもの
言語	母語, 外国語などに言及しているもの
ビザ	在留資格, 帰化などの手続きに言及しているもの
労働条件	賃金や解雇などに言及しているもの
経済	経済状況に言及しているもの
交通機関	バスなどの公共交通機関に言及しているもの
情報	情報の不足に言及しているもの
病院	病院に言及しているもの
親切	親切にされていることについて言及しているもの
復興	被災や復興について言及しているもの
選挙権	選挙権について言及しているもの
入国管理局	入国管理局に言及しているもの
病気	病気に言及しているもの

